

令和2年度 運営内容を確認するための基準チェックシート/評価シート

チェック項目	地区・記入日	大聖寺地区		南郷地区	山代地区	
		大聖寺なでしこの家	きょうまち	なんごうえがお	山代すみれの家	ききょうが丘
		令和3年3月31日	令和3年3月15日	令和3年4月7日	令和3年3月18日	令和3年2月10日
1. 職員の適正配置						
・ブランチは実施要項に示す職員を0.5人以上配置している（相談・会議・社会資源の把握等の業務に対して通年平均1日3時間の業務の実施）		はい	はい	はい	はい	はい
2. 必要書類の作成と確実な提出						
・定められた記録（提出物）を期日までに提出している		はい	いいえ	はい	はい	はい
3. 専門性の確保						
・職員の研修履歴を記録し、今後の研修計画に役立てている		はい	はい	はい	はい	はい
・市主催の研修に、参加している		はい	はい	はい	はい	はい
・事業所内での事例検討や業務に対する課題の抽出など職員と内部研修等の機会を設けている		はい	はい	はい	はい	はい
4. 緊急時の体制整備						
・夜間・休日、緊急時を含めて24時間365日の対応ができるようにしている（連絡網の整備含む）		はい	はい	はい	はい	はい
5. 苦情解決体制の整備						
・苦情受付担当者・責任者・第3者委員を利用者にわかるように表示している		はい	はい	はい	はい	はい
・苦情対応マニュアルやリスクマネジメントの内容を全職員が理解し、適切に運用している		はい	はい	はい	はい	はい
6. 個人情報の保護						
・利用者に関する記録の適切な保管が定めている		はい	はい	はい	はい	はい
・関係機関への情報提供として、利用者の同意を確認している		はい	はい	はい	はい	はい
・利用者のプライバシーを確保できる相談面接室を設置している		はい	はい	はい	はい	はい
7. ネットワークの構築						
・ブランチ連絡会に参加している		はい	はい	はい	はい	はい
・地域ケア会議を開催するにあたり事前に開催目的を検討し、目的に沿って地域関係者の参加を呼び掛けている		はい	いいえ	はい	はい	はい
・基幹型（地区担当職員）と協働して、見えてきた地域の課題をまとめている		はい	いいえ	はい	はい	はい
8. 総合相談						
・総合相談の実件数が、75歳以上の高齢者数の1割程度ある（基幹型・ブランチあわせて）		はい	はい	はい	はい	はい
・総合相談実件数のうちブランチ訪問実件数が、50%程度（同行含む）ある		はい	はい	はい	はい	はい
・総合相談延件数のうち訪問延件数が、30%以上		はい	はい	はい	はい	はい
・直接、ブランチへの相談件数が開始時より増加している		はい	はい	はい	はい	はい
・訪問実人数のうち軒下マップ作成が70%以上		はい（137件）	いいえ（59件）	いいえ（39件）	はい（98件）	はい（126件）
・ブランチ及び地域のかかわりのみで支援の継続が難しい場合は他機関につなぐ支援を行っている		はい	はい	はい	はい	はい
9. 介護予防						
・基本チェックリストハイリスク者に対し、介護予防の必要性や生活改善の見通しについて説明している		はい	はい	はい	はい	はい
・介護予防（認知症含む）の必要性等の啓発普及にも取り組んでいる（1回以上）		はい	はい	はい	はい	はい
10. 地域への広報及び社会資源の把握と支援						
・地域包括支援センターブランチの看板やチラシが分かりやすく表示、設置されている。		はい	はい	はい	はい	はい
・民生委員や地域の関係団体等に対してチラシ等を作成し、ブランチの所在や役割等を広報している。		はい	いいえ	はい	はい	はい
・地域資源（サロン・サークル・老人会等）の地域活動の場面や拠点に向き顔の見える関係づくりに取り組んでいる		はい	いいえ	はい	はい	はい
・ブランチ及び地域福祉コーディネート業務として取り組んだ内容や実績報告を地域住民に公表し意見をもらっている。（運営推進会議含む）		はい	はい	はい	はい	はい
11. 中立・公正性の確保						
・職員一人ひとりが、準公的機関としての認識を持ち公正・中立性に留意して業務に携わっている		はい	はい	はい	はい	はい
・公益的な機関として特定の事業者等に不当に偏った活動にならないよう紹介もふくめて事業運営をおこなっている。		はい	はい	はい	はい	はい

ランチ

令和2年度 運営内容を確認するための基準チェック

チェック項目	地区・記入日	庄地区	勅使・東谷口地区	片山津地区	金明地区	橋立地区
		いらっせ庄	ちよくし	いらっせ湖城	きんめい	はしたて
		令和3年3月25日	令和3年3月23日	令和3年3月31日	令和3年4月20日	令和3年3月31日
1. 職員の適正配置						
・ランチは実施要項に示す職員を0.5人以上配置している（相談・会議・社会資源の把握等の業務に対して通年平均1日3時間の業務の実施）		はい	はい	はい	はい	はい
2. 必要書類の作成と確実な提出						
・定められた記録（提出物）を期日までに提出している		はい	はい	はい	はい	はい
3. 専門性の確保						
・職員の研修履歴を記録し、今後の研修計画に役立てている		はい	はい	はい	はい	はい
・市主催の研修に、参加している		はい	はい	はい	はい	はい
・事業所内での事例検討や業務に対する課題の抽出など職員と内部研修等の機会を設けている		はい	はい	はい	はい	はい
4. 緊急時の体制整備						
・夜間・休日、緊急時を含めて24時間365日の対応ができるようにしている（連絡網の整備含む）		はい	はい	はい	はい	はい
5. 苦情解決体制の整備						
・苦情受付担当者・責任者・第3者委員を利用者にわかるように表示している		はい	はい	はい	はい	はい
・苦情対応マニュアルやリスクマネジメントの内容を全職員が理解し、適切に運用している		はい	はい	はい	はい	はい
6. 個人情報の保護						
・利用者に関する記録の適切な保管が定めている		はい	はい	はい	はい	はい
・関係機関への情報提供として、利用者の同意を確認している		はい	はい	はい	はい	はい
・利用者のプライバシーを確保できる相談面接室を設置している		はい	はい	はい	はい	はい
7. ネットワークの構築						
・ランチ連絡会に参加している		はい	はい	はい	はい	はい
・地域ケア会議を開催するにあたり事前に開催目的を検討し、目的に沿って地域関係者の参加を呼び掛けている		開催なし	はい	いいえ	はい	はい
・基幹型（地区担当職員）と協働して、見えてきた地域の課題をまとめている		はい	はい	いいえ	はい	はい
8. 総合相談						
・総合相談の実件数が、75歳以上の高齢者数の1割程度ある（基幹型・ランチあわせて）		はい	いいえ	はい	はい	はい
・総合相談実件数のうちランチ訪問実件数が、50%程度（同行含む）ある		いいえ	はい	はい	はい	はい
・総合相談延件数のうち訪問延件数が、30%以上		はい	はい	はい	はい	はい
・直接、ランチへの相談件数が開始時より増加している		はい	いいえ	はい	はい	はい
・訪問実人数のうち軒下マップ作成が70%以上		はい（40件）	いいえ（13件）	はい（144件）	はい（40件）	はい（77件）
・ランチ及び地域のかかわりのみで支援の継続が難しい場合は他機関にたく支援を行っている		はい	はい	はい	はい	はい
9. 介護予防						
・基本チェックリストハイリスク者に対し、介護予防の必要性や生活改善の見直しについて説明している		はい	はい	はい	はい	はい
・介護予防（認知症含む）の必要性等の啓発普及にも取り組んでいる（1回以上）		はい	はい	はい	はい	はい
10. 地域への広報及び社会資源の把握と支援						
・地域包括支援センターランチの看板やチラシが分かりやすく表示、設置されている。		はい	はい	はい	はい	はい
・民生委員や地域の関係団体等に対してチラシ等を作成し、ランチの所在や役割等を広報している。		はい	はい	はい	はい	はい
・地域資源（サロン・サークル・老人会等）の地域活動の場面や拠点に向き顔の見える関係づくりに取り組んでいる		はい	はい	はい	はい	はい
・ランチ及び地域福祉コーディネート業務として取り組んだ内容や実績報告を地域住民に公表し意見をもらっている。（運営推進会議含む）		はい	はい	はい	はい	はい
11. 中立・公正性の確保						
・職員一人ひとりが、準公的機関としての認識を持ち公正・中立性に留意して業務に携わっている		はい	はい	はい	はい	はい
・公益的な機関として特定の事業者等に不当に偏った活動にならないよう紹介もふくめて事業運営をおこなっている。		はい	はい	はい	はい	はい

ブランチ

令和2年度 運営内容を確認するための基準チェック

参考資料

チェック項目	地区・記入日	動橋地区		作見地区		山中地区
		動橋ひまわりの家	いらっせ分校	いらっせ松が丘	さくみ	お茶の間さろん
		令和3年3月26日	令和3年3月30日	令和3年4月20日	令和3年2月1日	令和3年3月23日
1. 職員の適正配置						
・ブランチは実施要項に示す職員を0.5人以上配置している（相談・会議・社会資源の把握等の業務に対して通年平均1日3時間の業務の実施）		はい	はい	はい	はい	はい
2. 必要書類の作成と確実な提出						
・定められた記録（提出物）を期日までに提出している		いいえ	はい	はい	はい	はい
3. 専門性の確保						
・職員の研修履歴を記録し、今後の研修計画に役立てている		はい	はい	はい	はい	はい
・市主催の研修に、参加している		はい	はい	はい	はい	はい
・事業所内での事例検討や業務に対する課題の抽出など職員と内部研修等の機会を設けている		はい	はい	はい	はい	はい
4. 緊急時の体制整備						
・夜間・休日、緊急時を含めて24時間365日の対応ができるようにしている（連絡網の整備含む）		はい	はい	はい	はい	はい
5. 苦情解決体制の整備						
・苦情受付担当者・責任者・第三者委員を利用者にわかるように表示している		はい	はい	はい	はい	はい
・苦情対応マニュアルやリスクマネジメントの内容を全職員が理解し、適切に運用している		はい	はい	はい	はい	はい
6. 個人情報の保護						
・利用者に関する記録の適切な保管が定めている		はい	はい	はい	はい	はい
・関係機関への情報提供として、利用者の同意を確認している		はい	はい	はい	はい	はい
・利用者のプライバシーを確保できる相談面接室を設置している		はい	はい	はい	はい	はい
7. ネットワークの構築						
・ブランチ連絡会に参加している		はい	はい	はい	はい	はい
・地域ケア会議を開催するにあたり事前に開催目的を検討し、目的に沿って地域関係者の参加を呼び掛けている		はい	はい	開催なし	いいえ	はい
・基幹型（地区担当職員）と協働して、見えてきた地域の課題をまとめている		はい	はい	はい	はい	はい
8. 総合相談						
・総合相談の実件数が、75歳以上の高齢者数の1割程度ある（基幹型・ブランチあわせて）		はい	はい	はい	はい	はい
・総合相談実件数のうちブランチ訪問実件数が、50%程度（同行含む）ある		はい	はい	はい	はい	はい
・総合相談延件数のうち訪問延件数が、30%以上		はい	はい	はい	はい	はい
・直接、ブランチへの相談件数が開始時より増加している		はい	はい	はい	はい	はい
・訪問実人数のうち軒下マップ作成が70%以上		はい（67件）	はい（54件）	はい（47件）	はい（100件）	はい（122件）
・ブランチ及び地域のかかわりのみで支援の継続が難しい場合は他機関にたぐ支援を行っている		はい	はい	はい	はい	はい
9. 介護予防						
・基本チェックリストハイリスク者に対し、介護予防の必要性や生活改善の見通しについて説明している		はい	はい	はい	はい	はい
・介護予防（認知症含む）の必要性等の啓発普及にも取り組んでいる（1回以上）		はい	はい	はい	はい	はい
10. 地域への広報及び社会資源の把握と支援						
・地域包括支援センターブランチの看板やチラシが分かりやすく表示、設置されている。		はい	はい	はい	はい	はい
・民生委員や地域の関係団体等に対してチラシ等を作成し、ブランチの所在や役割等を広報している。		はい	はい	はい	はい	はい
・地域資源（サロン・サークル・老人会等）の地域活動の場面や拠点に向き顔の見える関係づくりに取り組んでいる		はい	はい	はい	はい	はい
・ブランチ及び地域福祉コーディネート業務として取り組んだ内容や実績報告を地域住民に公表し意見をもらっている。（運営推進会議含む）		はい	はい	はい	はい	はい
11. 中立・公正性の確保						
・職員一人ひとりが、準公的機関としての認識を持ち公正・中立性に留意して業務に携わっている		はい	はい	はい	はい	はい
・公益的な機関として特定の事業者等に不当に偏った活動にならないよう紹介もふくめて事業運営をおこなっている。		はい	はい	はい	はい	はい

令和2年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	大聖寺地区こころまちセンター 大聖寺なでしこの家
施設管理者	北村 洋子
事業責任者	森山 悠莉乃
ランチ設置年月	平成27年10月

目指す姿	慈豊会の理念「和顔愛語」のもと、大聖寺地区こころまちセンターとしてランチ・コーディネーターの役割をしっかりと自覚して身近な相談窓口としての事業所をめざす。 地域住民から気軽に相談できる事業所、信頼できる事業所でありたい。 助け合い支え合うことの重要性、繋がり輪の大切さを広めて住みやすい町づくりを目指す。
------	--

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仕合せ交流会の周知や参加を促していくために地域の方と共に積極的に広報していく。 ・ 相談業務で不明なことがあれば必ず確認し、迅速に対応していく。 ・ 知り得た知識や新しい情報は職員間で共有しランチミーティングでも意見交換しながらスキルアップを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仕合せ交流会はコロナウイルス感染防止のため休止中 ・ 基本チェックリストの電話・訪問は職員間で分担しながら順調にすすめている。不明な点があれば、事業所内で相談・確認を行い、一人で抱え込まないようにしている。 ・ 10月からランチミーティングを再開し、現状の報告と新規の相談に携わる職員を増やしスキルアップを図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍で仕合せ交流会は出来なかったが、地域課題や今後の活動について、きょうまちと意見交換を行った。 ・ 相談件数は前年度390件、今年度640件となり、身近な相談窓口になっている。複合的な相談も増加しており、関係機関と連携している。 ・ ランチミーティングでは事例を紹介し、知識や対応を学んでいる。職員間で全相談を一読したらサインをしている。どの職員に相談があっても対応できるよう情報共有を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 座談会で地域の課題を検討することは良いと思う。コロナ禍なので、今できることを工夫しながら進めて行けると良い。協力できることは行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ① コロナウイルス感染状況を確認しながら「しあわせ座談会」の活動を進めていく。 ② ランチの新規相談に訪問することが出来る職員を年度内で1人増やす。そのために同行訪問をしていく。 ③ 毎月1回ランチミーティングを開催し、各職員のスキルアップを図る。不明な点、疑問点はその都度相談し解決していく。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民生委員の集いや、仕合わせ座談会、交流会運営推進会議では地域の方々の意見を聞きながら地域の課題である男性の出場所が少ないことや、男性が集いや様々なイベントに参加が少ないことに対して一緒に取り組んでいく。 ・ 同じように男性参加者が減少している高齢者学級の人から直接意見をいただき一緒に考える機会を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナウイルス感染防止のため、イベントは中止している。 ・ 各サークルの予防活動を開催したが、9割以上が女性であり、男性の参加は少ないことから、男性の出場所の必要性を感じている。今後の取り組みとして、まずはメロウ加賀、きょうまち、なでしこで検討し、住民の方々と交流できる様に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ きょうまちと仕合せ交流会を途切れさせないように座談会だけでも継続していくこととなった。 ・ 職員間で軒下マップの情報を共有できているが途切れたところのアプローチができていない。 ・ ランチが知り得た社会資源は年々増えているため面談等、職員が話の内容をキャッチしやすくなった。 ・ 大聖寺地区は独居や高齢世帯、子が県外居住の方が多い。コロナ禍で県外にいる子が帰省できず、親の状態が心配・不安であるという相談が増加した。遠方のご家族が安心出来るように声掛けや説明を心掛けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍であり、地域おたっしやサークルの代表はサークル活動の継続に不安がある。 ・ 地域おたっしやサークルによっては参加人数が多く、会場の人数制限のため活動が再開できていない。 ・ 大聖寺は子が県外に在住の方が多く、コロナ禍のためなかなか会うことが出来ず状態が変化していないか心配している。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 職員が地域住民との交流を持てるように元気はつらつ塾は新規利用者が利用する際に出向く。地域おたっしやサークルは行ったことのない職員が年度内に1度は出向き関係の構築を図る。 ② 相談者本人や家族に安心して頂けるように分かりやすい説明や声掛けをしていく。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談が民生委員の方や地域住民の方、または医療機関からの時は、訪問時の健康状態や生活状況については今後もタイムリーに報告していく。 ・ ランチと相談者がお互いに情報を共有しながら連携を密にして関係を築く。またそのつながりを軒下マップに記入し、その軒下マップの情報を事業所内のミーティングで共有していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症ケアパスに参加し、ボランティアの方々と関係構築に努めた。 ・ 民生委員や地域住民の方から直接の相談が増えており、タイムリーに連絡・報告することを心掛けている。 ・ 相談業務では、精神面・金銭面・家族間の問題等複雑な事例が増えており、軒下マップでの社会資源から確認を行い、連携を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 退院後の生活状況や健康状態について病院と話し合い、ご本人の病気や不安に寄り添いながら検討することが出来た。相談者から「横の繋がりが出来ていることに驚いた、ありがとう」と言っていた。民生委員さんとも連携し、退院後も引き続きお願いしませすとお伝えした。 ・ 居宅ケアマネジャーやデイサービス等の介護事業者との新しい出会いも増えている。 ・ 「わたしの暮らし手帳」を普及していくため、地域の方々とケアパス検討し、広報活動を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入院された時等、ランチが把握している情報を民生委員にも伝えてほしい。情報共有がしたい。 ・ 個人情報等、問題になることも知っているが、地域で支えるというのなら情報共有が必要と感じる。そのようなことも座談会で検討していきたい。 ・ 居宅ケアマネジャーから、「困ったときはキャンナスに相談する」との情報を得る。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 相談を受けた後に、本人の了解を得て相談者について、ランチ職員と民生委員や医療機関、ボランティア等、関係機関と情報共有をしながら密に連携を図っていく。 ② ケースごとに相談者に関わる多職種と連携し、お互いに情報共有していき社会資源を一つでも多く把握していく。まずはキャンナスの活動内容確認していく。知り得た情報は事業所の軒下マップに追加していく。

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
4 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仕合せ交流会を継続していく。地域住民の声を聞きながら対応していく、介護予防に繋げていく。 ・ しあわせ交流会、座談会には他の職員も参加していく。 ・ ブランチとしては地域住民が主体で開催していけるように開催の目的を座談会で確認していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10月から各サークルへ出向き、コロナウィルス感染予防・フレイル予防・熱中症予防についての研修会を行っている。コロナでサークルは休止していたが、再開してみると結果として参加率が高かったため、地域おたっしやサークルの代表者が驚いていた。 ・ 相談者でサークルに参加していた人も居り、その方の現状を確認できた。また住民と出会う機会となり、住民の方々の生の声を聞いたことは良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仕合せ交流会はコロナ禍で再開のめどが立っていないため、今後の活動についてきょうまちと協議した。 ・ チェックリストで訪問の時はどの部分でハイリスクになっているか確認している。改善出来そうな所は助言していき個々のケースについても介護予防に繋げている。出来るだけ同じ職員が担当しており気軽に相談できる関係を作っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍のため、仕合せ交流会の開催が難しいことは理解している。 ・ 出場所の見学後は相談者に紹介するだけでなく、紹介した結果どのような効果があったか確認もすると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ①チェックリスト訪問は事前にハイリスクの情報を把握していき、状態確認や生活状況を確認していく。 ②きょうまちブランチと共に、上半期中に地域資源の出場所を見学、確認等して個々の相談者に応じた適切な場所を紹介していく。
5 地域福祉コーディネイト業務について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域おたっしやサークル以外にも個人での習い事が多い地域なので、習い事についても積極的に皆さんにお聞きして、資源マップに追加していく。その上で介護予防に繋がれるように提案していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人の趣味や習い事をお聞きして軒下マップに記入はしているが、資源マップに追加出来ていないのが現状である。職員全員で資源マップに追加出来るシステム作りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車の免許を返納されて行動範囲が狭くなったため出場所を紹介してほしいと相談された方に対し、健康状態や生活歴を確認した結果、歌が大好きであることがわかり、歌の個人教室を探し本人へ情報を提供した。また、歌の先生へも挨拶し、相談者の現況の説明を行った。 ・ 地域の資源を紹介することで見守り体制が強化される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域おたっしやサークルや趣味の習い事を足が悪くなったりしても継続できるようにすると良い。 ・ 南郷地区では地域住民が「チョボラ」に入り、送迎を行い参加しやすい環境を作り馴染みの場所を絶やさないようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①年に1度は地域の習い事の先生や地域おたっしやサークルの代表や活動に参加している方々のところに訪問し、顔の見える関係を作る。 ②分析シートでは筋骨格系疾患が多いと結果が出ているので、地域で運動ができる出場所を把握して予防につなげていく。4②と同じ。

令和2年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	大聖寺地区高齢者こころまちセンター 小規模多機能ホームきょうまち
施設管理者	木ノ下 優子
事業責任者	西田 佳枝
ランチ設置年月	平成28年10月

目指す姿	『自分のため 誰かのために 持てる力を発揮できる町 大聖寺』を目指して、地域で活動されている方達（近所の高齢者、サロンやサークルの活動者、民生委員、ボランティア、ケアパス劇団員）との接点を持ち、ランチ事業所と関係を構築していく。きょうまちスタッフ全員が地域で活動されている方達から認められるように、まずは挨拶を積極的に行っていき、町のどこで見かけても声を掛けあえる仲間作りをしていきたいと考えている。
------	--

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	事業所：去年度、軒下マップの必要性を共有出来たが、理解のバラつきがないように今後も月1回のスタッフ会議で勉強会をしていく。 スタッフ：スタッフを2～3人のグループに分けて各地区の割り振りをし、軒下マップを作成していく。スタッフ会議では作成した軒下マップから社会資源について確認していく。仕合せ交流会は大聖寺なでしこの家と運営方法・活動を考え活動支援していく。	・スタッフ会議で軒下マップの必要性を再度確認を行って、各地区で2人ずつ担当制にすることができた。進捗状況や活用できそうな資源があるかも確認を行っていく。 ・仕合せ交流会の活動はコロナで出来ていないが、再会出来る時には、大聖寺なでしこの家と一緒に活動支援をしていく。	・4月に異動で管理者と事業責任者が交代となり、今まで積み重ねてきたことの継続ができなかった。軒下マップの作成を行ったが、何のために作成したのか皆が理解不足で活用できるものにはならなかった。 ・仕合せ交流会はコロナのことで実施は出来なかった。今後もしつ出来る状況になるのか不明である。現在も大聖寺地区で開催している活動のリストを作成し、大聖寺なでしこの家と共有することとした。	・できていない点でなぜ出来なかったのかを分析して問題点が見えるようにした方が良いのでは。 ・要因の深堀、具体的な施策を見つけ対応する。 ・軒下マップ等のツールはあくまでツールであり、運用は個人ではなく全員で共有、周知が必要と思います。	①各地域おたっしやサークルへ、月1回参加するようにし交流を通し関係作りを行う。その町の世話焼きさんや資源等得られた情報があったら軒下マップに書き込み更新していく。 ②寺子屋きょうまち等地域の方との交流のイベントがコロナ禍で行うことが出来ていない。地域の方との関係作りとして、町内のクリーン活動を年間行事に入れて行ってみる。また、大雪の時には雪かきの協力等ご近所への貢献を始めてみる。区長に相談し、取組みについて検討していく。
2 区域ごとのニーズに応じた重点的に行うべき業務の方針	・地域の実情を把握するため、又事業所の理解を得ていただくために、運営推進会議の参加者を各地区の民生委員、区長、交番、郵便局等にお声かけをする。 ・各種団体の方との交流や活動に参加し、地区の方から声を聞き、軒下マップを活用し、課題を整理する。 ・寺子屋きょうまちに参加される各団体にできる事、したい事を確認し、各団体の主体性を尊重しながら協力していただく。	・コロナのことで運営推進会議は開催出来ていなかったが、11月に開催を予定している。各地区の民生委員、区長、交番、郵便局等にお声かけをする。 ・10月からコロナウイルス感染症予防の講座で各地域おたっしやサークルやサロンに出向いている。大聖寺地区高齢者こころまちセンターのアピールを行っている。 ・寺子屋きょうまちに関しては再会の目途が今のところない。	・運営推進会議は1回のみ開催だった。新たに郵便局長さんに参加していただくことができた。 ・感染症予防等指導業務で各町のおたっしやサークル等へ出向く機会ができた。地区こころまちセンターのアピールすることも出来た。	・1～5で共通して思ったことは、きょうまち職員全員がかかわっておらず、一部の職員のみ活動となっている様に思いました。全員参加、全員で共有は出来てますか？	①2か月に1度の運営推進会議に、民生委員、区長、郵便局、警察等に声をかけて参加してもらい、地域の実情のことを共有し大聖寺の地域性を把握する。高齢者がその地域で生活を継続するための課題や、繋げる資源があるのか等探ってみる。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針	・今年度は地域おたっしやサークル・ふれあい・いきいきサロンの活動は、まず管理者・事業責任者・スタッフと3人で各団体の担当を決め、顔なじみの関係を築いていく。 ・3ヶ月に1回は活動に参加する日を決め、お互いに情報を共有しながら連携を密にして関係を築いていく。	・今回のコロナウイルス感染症予防講座で各おたっしやサークルやサロンに出向いており、顔つなぎや地域の方との交流も行っている。 ・地域の方、ボランティアの方、医療関係、介護事業者が集まる、介護医療連携の研修はコロナ禍で開催されていない。	・かがやき予防塾やケアパス検討会に参加することができ、一部顔見知りの関係になれた。 ・介護医療連携の研修会はリモート参加だったため、関係性作りには至らなかった。	コロナで例年通りできなかったことがあるかと思いますが。指摘の点などは特にありません。	①医療福祉連携勉強会、かがやき予防塾、ケアパス検討会等参加していき、相談や情報交換等行えるよう関係性を築いていく。 ②相談者のADLやIADLの実態把握の他に、その方の周囲関係や大切にしてきたことも共有し軒下マップに記入出来るようにする。地域での暮らしを継続するために必要と感じた場合は民生委員や区長と相談したり、話し合いの機会を作っていく。 ③活動場所の提案が行えるようになでしこランチと共に上半期中に見学させていただき、代表者と関係作りを行い、リスト作成をする。

4	介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	<p>・各種団体等からでた、地域の高齢者の心配事や相談を聞いた際には記録に残し事業所内で、課題分析をし、伝えていけるようにしていく。また、年2回は各種団体に出向き、予防の視点で気になる方がいないか確認していく。</p>	<p>・各地域おたっしやサークルやサロンから、地域の高齢者で気になる方、心配な方がいないか等の呼びかけを行っていき、介護予防につなげていきたい。</p>	<p>・コロナ禍でおたっしやサークル等も休止されていたこと、事業所としても集団の場所へ出向くことを躊躇していたこともあった。感染予防等指導業務で出向かせて頂き、大聖寺地区こころまちセンターきょうまちのアピールまでは行えたが、情報収集までは出来なかった。</p> <p>・大聖寺地区ブロック連絡会で、大聖寺地区と南郷地区で相談内容の違いがあることから地域性の違いの分析は行えた。大聖寺地区は、近隣交流の範囲が狭く、同町内であっても少し離れるとご近所付き合いも薄いことが見てきた。独居や高齢者夫婦世帯で、子供は県外でコロナのことで帰省も出来ずという相談が多かった。</p>	<p>子供らには迷惑をかけたくないと考え、困っていることを伝えられていない家も多いのではないかと。民生委員から相談があり訪問を行っても、困りごとを伝えて頂けなかったり、訪問事態拒否されたお宅もあった。自分たちで抱え込んでいる人も多いと思われ、今後の課題だと感じる。</p>	<p>①民生委員、区長には運営推進会議で、地域おたっしやサークルの方達等とは月1回の訪問時に情報交換出来る機会を作り、心配な方やサークルに来れなくなった方等の共有が行え、さりげない訪問が行えるようにする。</p> <p>②ランチに関わるスタッフ全員が、介護予防の活動の提案や助言が行えるよう住民向けの資料を上半期中に作成し、ランチメンバー会議の場で共有していく。</p>
5	地域福祉コーディネーター業務について	<p>毎月ランチ連絡会の後に、ランチ主要メンバーで、定期的にランチケース検討会や地域福祉コーディネーター業務の勉強会を行ない、質の向上を目指し、自分達の課題を明確にしていく。</p>	<p>・ランチメンバーで介護保険に関することや、申請までの流れ等勉強会を時々開催している。訪問を行なって地域福祉コーディネーター業務を行なえるメンバーを増やしていけるようにしている。同時に質の向上を目指して行けるよう研修会があったら参加を促している。</p>	<p>・ランチメンバーで勉強会を行ってきた。いくつか事例の紹介も行った。訪問の同行、助言、相談、指導等2人の育成を行え、3人で新規相談に対応できるよう体制を整えた。更に、現在1人育成中である。</p>	<p>運営推進会議を開催しておらず、意見を聞くことができなかった。また書面でも意見がなかった。</p>	<p>①ランチメンバー会議を毎月開催し、勉強会、ケース検討会、資料作り、軒下マップの追加更新等を行っていく。資料は訪問時に持って歩けるような物を作り、担当するスタッフが訪問相談時にその場で提案助言が行えるようにする。</p> <p>②ランチメンバー会議で勉強会を行い、本人の持っている力や家族の介護力、地域の力等も聞き取れて、適格な支援に繋がられるよう、アセスメント力を向上していく。</p> <p>③研修会への参加、ケース検討会でアセスメントの視点を学びあう場を設けていく。</p>

令和2年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	南郷地区高齢者こころまちセンター 小規模多機能ホームなんごうえがお
施設管理者	南出 明子
事業責任者	南出 明子
ランチ設置年月	平成28年10月

目指す姿	『安心して暮らしていく為に、家族のように1つの輪になる』 そのためには、地域との関係作りでランチの存在を知ってもらう活動や、地区の皆さんが集まれる場所作りに取り組んでいく。
------	---

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	<ul style="list-style-type: none"> 毎年基本チェックリスト対象者になる方がいるので、担当を決めモニタリングできるようにしていく。新たな対象者は、情報共有し次年度や相談を受けた時に備えられるようにしておく。 昨年からの継続として、女性の団体（婦人会や保健推進員等）が参加している会合でPRしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナウイルス感染拡大防止のため、基本チェックリスト訪問が出来ず電話対応を主としている。しかし、電話対応困難な方や連絡がつかない方のみ訪問した。なかには、これまで別居家族同席のもとで訪問していた方について直接家族に連絡を取り確認したケースもある。 ランチ担当者（計5名）で毎月ミーティングし、相談対応ケースや連絡会内容、基本チェックリスト訪問の対応について等の情報共有している。 PR活動は出来ていないが毎月「えがお通信」を発行し「介護・福祉の相談窓口」であることを毎回記載。また事業所内の様子がわかる写真も載せ、回覧板で目に留めてもらえる工夫をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本チェックリスト対象者の担当スタッフを決めた訪問担当を決めての訪問は出来なかった。またランチミーティングでの情報共有は、十分にできなかったが、訪問後に事業責任者や他職員に報告し、対応策が必要と捉えた場合には早期に再訪問や電話対応をすることは出来た。 個人の「できる力」「持っている力」の聞き取りまでは出来ず、事業所の取組みに繋げることができていない。 各団体の会合や町のサークルへの参加は殆どできなかったが「認知症ケアパス」や「かがやき予防塾」に参加し市民の方々と一緒に活動することが出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> 南郷地区内で月1回「えがお通信」を回覧板で目にする機会があるのは、圧倒的にPR効果があると思います。文章は殆ど読まないものなので構成として写真が多くされており、後は「相談できる場所ですよ」ということが明示されているのがよいと思います。他地区と比べ広く知られているから直接相談する件数が多いのだと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ①市民の方々が参加する活動の場に参加し一緒に取り組み、その実際を毎月の職員カンファレンスで報告していく。具体的な取り組みやスタッフとしての関わりや経過結果を報告して、くことを重ね、事業所として「してあげる＝ケア提供」視点になりがちだが、人の「できる力」を活かした支援を考えていけるようにする。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	<ul style="list-style-type: none"> 統計から、運動や活動に関する情報提供のニーズが高いと思われ、地域資源マップ作成に取り入れる。また相談を受けた時に要望に応えられるように公的資源も含めた情報を事業所内で情報共有していく。 事業所の防火訓練に防災士や防災リーダーの方々に参加していただき、防災計画の評価をうけ見直していく。その取組みを通してネットワーク構築につなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域資源マップの作成は進んでいない。 防災について、7月開催の運営推進会議に地区防災士の方に参加してもらい地区独自に作成した「防災マップ」と「ハザードマップ」についての説明を会議メンバーで受けることが出来た。事業所防災計画についてより具体的に行動できるよう助言を受けることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎年基本チェックリスト訪問対象者であれば家族構成や近所付き合い等の把握が出来てきており、南郷地区の特徴が把握出来てきた。しかし、地区の課題やニーズを把握するまでに至っていない。 民生委員から同行訪問の依頼や状況把握の相談も受ける機会が増え知名度の高まりを感じるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 地区の防災訓練は、以前のように地域住民参加型の開催は難しく、今年度は町ごとに防災士や区長、民生委員で高齢者世帯や独居者宅を訪問しました。 南郷地区全体が防災に対する意識が高いと感じます。 	<ul style="list-style-type: none"> ①南郷地区の「課題」や「ニーズ」は事業所から見たものでなく、あくまでも実際に生活している方々から抽出されなければならず、それに応じた情報収集を行わなければならぬ計画実行になってしまう。そのためには、地区のネットワーク座談会や運営推進会議を通じて「課題・ニーズ」としてどのようなことがあるのか？等投げかけることから始め、地域の方々と一緒に考えていく取組みをしていく。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議で、元気はつらつ塾のケース進捗会議やランチ相談の対応報告を行い、どのように地域と関係機関が連携しているかを知ってもらえるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議が7月の1回しか開催できておらず、その時も防災をメインにしていたため、計画実施出来ていない。 ランチ事業所として各関係機関とは連絡取れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議は、4か月に1回のペースで開催時間も短時間としたため、参加者から機関の報告を主に行い、ランチの相談対応や元気はつらつ塾についての報告が殆ど出来なかった。 介護相談の窓口として、医療機関の相談員や民生委員からだけでなく、地域の高齢者の世話役になっている方からも直接相談が入るようになりネットワークの広がりをを感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 会議では、高齢者のことが主になるが学校のこと、今年度はコロナ対策のことも報告や説明があったので知らなかったことを知ることが出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ①今年度十分出来なかったため継続実施として、運営推進会議で元気はつらつ塾ケース進捗会議やランチ相談の対応報告を行い、どのように地域と関係機関が連携しているかを知ってもらう。結果として、地域の方々にとって連携システムの情報が増え「できる力」「持っている力」の向上に繋がられる取組みをしていく。
4 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	<ul style="list-style-type: none"> 事業責任者とスタッフ1～3名が、地区のイベントやサークル活動に参加していく。その中で、ランチ事業所としてどのような取組みができるかよいのかを話し合っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナウイルス感染拡大防止のため、活動参加は出来ていないが、ランチミーティングを月1回開催するようになった。内容は主に報告になっているため、取組みについて話し合っていく。 介護保険サービス以外の介護予防に係る福祉サービスの情報に乏しくきちんとしたマネジメントが出来なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本チェックリスト訪問対象者や介護相談をされた方々に、運動や体操の機会や場所として各町のサークルやサロン、はつらつ塾の紹介をしている。また2名の方に短期集中予防サービスを紹介し、活動の目標に近づき生活意欲の向上に繋げることが出来た。 ケアマネジメント力は十分でなく、ランチミーティングでも報告が主になっているのでケースについて学ぶ機会が少なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 専門的なことは自分達から意見することは無い。 	<ul style="list-style-type: none"> ①月1回のランチミーティングでケースについてだけでなく、市民活動（認知症ケアパスやかがやき予防塾やキャラバンメイト）と一緒に取り組んでいく。その経過報告の中で、どのように考え、どう支援したかの振り返りを行うことを重ね、ケアマネジメント力の向上に繋げていく。

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
5 地域福祉コーディネート業務について	<p>・地域コーディネート業務の1つとして、基本チェックリスト訪問に焦点を絞り計画的に実施していく。具体的には、前年度の情報整理や訪問の進め方や聞き取り方について他担当スタッフ同士で情報交換や勉強会を行う。それをきちんと行う中で、実態把握やケースの振り返りをを行いながら訪問していく。</p>	<p>・基本チェックリストに関して計画実施は出来ていない。聞き取り方について、相談票の模範から昨年より注意深く聞き取り出来るようになってきている。丁寧なケースの振り返りまで出来てないため、今後上手くできないケースから学びを深められるようにしたい。</p> <p>・ランチ研究会に地域住民と参加できた。今後継続的なつながりを持ち、共通知識を地域に生かす取り組みを考えられるように働きかけたい。</p>	<p>・訪問対象者の情報共有や振り返りをランチミーティングで実施することは出来なかった。しかし、新たに訪問職員が増え事業責任者交代し業務担当の割り振りが変更になったことで、ランチ業務の理解が広がった。</p> <p>・ランチ勉強会で介護認定の有無や年齢に関わらず「暮らす」は同じであることを事業所の職員カンファレンスで伝達講習が出来た。</p>	<p>・コロナウイルス感染症予防の研修会に、サークルのリーダーさんと一緒に参加し基本原則が大事であることをしっかり学べ、他の人にも伝えることが出来た。</p>	<p>①地域の状況は町ごとに、家族構成の傾向や社会資源等の環境も異なっているので、年度内に‘独居’‘高齢者世帯’等を南郷地区の地図上で色分けし、職員全員が目で見えて情報共有できるようにしていく。</p> <p>②ランチ勉強会や連絡会に参加し、伝達講習や報告を職員カンファレンスで行い、ランチの仕組みについて意見交換する。</p>

令和2年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	山代地区高齢者こころまちセンター 山代すみれの家
施設管理者	古井 正美
事業責任者	直谷 麻衣
ランチ設置年月	平成27年9月

目指す姿	山代という地域の中に根付いた事業所になる事で、「相談しやすい場所」として位置づけられるであろう。多くの人たちとつながりを持った事業所になり、どのような方法であれ、自分たちが直接関わったり、出掛けたりしなくても、自然と地域の問題、課題、楽しい事、嬉しい事、素晴らしい事、困っている事などいろいろな情報が舞い込んでくる事業所でありたい。その中で「人と人とをつなぎ合わせられる場所」になればと思います。
------	--

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	<ul style="list-style-type: none"> ・小さいことでも確実に地域へ働きかけることを継続させていきたい。今は「かかと上げ体操30回」が定着してきたので、しばらくしたら、ほかの体操が出来るように声掛けし、ステップアップさせたい。 ・1週間に2日ほど、すみれの家の利用者とラジオ体操参加者と共にお茶をする時間を作り、「山代地区高齢者こころまちセンター」としての役割を知ってもらおう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため外出自粛となっている状況がある。今まで、地域とのかかわりも少しずつ広がってきていたので、ステップアップ体操をして行こうと考えていたが、試みはできなかった。 ・7月の1ヵ月間だけだが、外でラジオ体操を行い、4、5人の参加があった。短期間だけだったが喜ばれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度はコロナ禍で、地域とのつながりを持った活動や今まで続いていたラジオ体操も1ヵ月だけで終わってしまった。そのため、介護予防のためのチラシを配布した。 ・コロナ禍での外出自粛もあり、地区住民のコロナ禍での不安な気持ち等、思いを聴く機会が持てなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「何も行事は出来ない、集まれない、出来ない」というだけでなく、前進しないといけない、何が出来るか考えていきたい。まずは一歩踏み出したいという、「山代地区をよくする会」のメンバーからの意見がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ①コロナ禍の前の状態に少しでも戻るようラジオ体操を秋ごろから晴れた日から外で実施していく（新型コロナウイルス感染症の状況をみて） ②感染防止対策の徹底をおこなう（参加住民も含めて）
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度は「オレンジカフェすみれ」で南陽園とのコラボが出来なくなった。しかし違った形で取り組みを考える。すみれの利用者と一緒に食事をしてもらい、認知症の方をもっと理解していただくとともに、同じ地域で暮らす住民として、協力し合える関係が作れるようにしていく。 ・住民が主軸となってボランティアさんの力が発揮できるような取り組みを考える場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「オレンジカフェすみれ」は南陽園の人手不足などから今後は中止となった。違った形での開催を考えていたが、コロナ禍で地域の方々との交流の機会はない。 ・ボランティアの発掘も職員の行動自粛もあり、出来ていない。 ・コロナ禍ではあるが、「新しい生活様式」をしっかり身につけ、感染予防しながら工夫を凝らした地域交流をみつけていくことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3月に「山代地区をよくする会」が実施できた。いつも参加している方は、この会の開催を待ちに待っていた。この会を山代の人たちを救う、「ボランティア団体」として組織化していきたいと考えていることがわかった。活発な意見を頂き、来年度に向けて、ますます住民の力の強さを感じることができた。 ・コロナ禍であっても出来る事を見つけて子供食堂を開催したいと考えたが、NPO法人かもママと話し合うことも出来なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年の冬は大雪となり、どこでも雪かきが出来ないという状況が続き、H30年度に「山代地区をよくする会」と山代中学校との話し合いで、中学生による雪かきボランティアを組織化させていたこともあり、そのことをもとに、来年度は子供と高齢者とのつながりなどを含め、多世代がふれあえるようシステム作りからしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ①「住民同士のつながりの希薄さ」等山代地区には課題が多い。R2年度の「山代地区をよくする会」において、中学生との関係構築をしていきたいという考えがあることから、「中学生と住民」とのつながりを持てるように働きかけていく。コロナ禍でもあるため感染防止を考慮し、どのような取り組みができるか検討し実施する。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員が今年改選があった。新しい民生委員になった方も多いため、少しでも多くのランチ職員が担当地区の民生委員と顔見知りになる。そうすることで、気軽に相談できる関係性を構築していく。 ・その後の丸山町の課題を継続して把握していき、民生委員を中心に、町の人たちと一緒に取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・山代全域の民生委員との顔合わせもしていない。個別的に知り合いになったところから、関係性を持っていく。 ・丸山町の民生委員とは運営推進会議などで情報交換はしている。しかし昨年度話し合った地域の課題に向けては取り組みは行なえていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域運営推進会議も2回しかできず、前から知っている民生委員としか関わっていない。ただ、個別支援から知り合いになり地域の課題と一緒に考える機会を持つことは出来た。 ・「丸山地区が「認知症の増加」や「男性の閉じこもり」等課題が上がっていたため地区地域ケア会議を行なったので、今年度はそのフォローアップを勧めたかったができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・丸山地区の「丸山会」の再開の目途は立っていない。感染症対策指導もしていない。どの地域でも高齢者の出かける場所がなくて困っている、と聞いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①丸山地区での通いの場の体制づくりについて、夏以降、コロナの感染状況を見て、民生委員や区長など町の方々相談する。②開催時には、コロナ感染防止の講義と実技を実施し、感染防止に務める。
4 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ラジオ体操に来られている方から、一般浴の相談が入ってきた。関係が出来たことで、気軽に声をかけて下さった。今後も体操の人たちの顔をしっかりと覚えられるように写真撮って、職員全員が名前を覚えていく。 ・本当のニーズを捉えられるよう、面談の後に事例検討や振り返りをランチ内で行い、軒下マップや社会資源を具体的に活かせるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の予防対策で、ラジオ体操も一般浴も行なっていない。コロナ禍が収束したら、順次地域の方との取り組みを再開していくつもりである。 ・コロナ禍で個々の相談から腰痛悪化、認知症悪化が多くみられているように感じる。活動量が少なくなっているからだろう。個人ができる介護予防、フレイル予防を周知していく必要があると感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般浴を行なっていることでどうにか地域での生活が続けることができていた方が、コロナ禍で一般浴が再開できない状況から体調の悪化や精神不安定等の情報を聴く。地域の予防拠点になっていないとつくづく感じる。 ・コロナ禍でも支えあえる地域づくりや介護予防のために何かできないかと推進会議で話し合い、住民からの提案で、友人から電話がくると元気が出るのでは、という案を頂き「お元気ですかコール隊」と銘打ってチラシを配った。友人からの電話で予防につながらないかと考え、住民にチラシを配布し促した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サロンや地域おたっしやサークルに感染症対策指導を行なっているが、非常に感染を恐れる方がいると、サロンなどはなかなか再開できない現状を聞いた。サロン再開を待ち遠しく思っている人がいるが、なかなか難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ①コロナ禍でも地域に出掛けた際に、一人でも多くの方に、今の生活における思いやサークル等の再開に向けての意見を聞いていく。 ②聞いた声を山代を良くする会へ伝え、企画運営に生かす。 ③山代を良くする会の企画運営の後方支援をおこなう

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
5 地域福祉コーディネーター業務について	<ul style="list-style-type: none"> ・かもママがすみれの家の地域交流室を利用して「代こみ食堂」を月1回行なっていく。そのうえでランチとして、子供との関わりを持ちたい、役割を持ちたいという世話焼きさんをマッチングさせていく。 ・「山代地区をよくする会」については、まちづくり推進協議会会長が交代になったが、住民主体で集まっているので、今後も山代地区をよくする会に対して後方支援を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で行事類開催が難しく、かもママとのコラボもできていない。 ・「山代地区をよくする会」についてはまだ開催予定が立たない。 ・コロナ禍であっても、支えあえる地域づくりを目指して、推進会議の中で、電話による「お元気ですか、コール隊というのはいかがか」という案がでた。早速話をご近所やお世話焼きさんなどに知らせてみたいと思っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「山代地区をよくする会」を3月に開催出来た。住民の何でも手伝いたい、知りたいという声や支えあえる地域、住みやすい地域でありたい、という気持ちが聞かれた。 ・山代中学校の子供たちによる「あこがれ協働隊」が地域との関わりを持って今後も力になってくれると感じた。来年度に向けて、組織づくりをしていければよいと考える。 ・社会資源マップは作成しているし、個々の軒下マップを作っているが、つなげる支援がまだ上手く出来ていないと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校との関わりや地域の声を反映できる体制を取るためにも、「山代地区をよくする会」は継続していきたいと思っている。方向性が決まったら、まず組織を作り上げたいという。とても頼りになる方々である。 ・「山代地区をよくする会」の中で、ちょっとしたボランティア、とくに女性のゴミ出しなどに困っていることをよく聞く。ボランティア組織が必要と感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ランチの中で軒下マップを生かした支援をおこなうために、年3回事例検討をおこなう。 ②2年前に作り上げた「山代地区の社会資源マップ」を1回修正・追記し、現在の山代地区の現状を知る。

令和2年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	山代地区高齢者こころまちセンター ニーズ対応型小規模多機能ホームききょうが丘
施設管理者	鹿野 久美(～R2.10.31)、大田 理佳(R2.11.1～)
事業責任者	中野 英里
ランチ設置年月	平成28年10月

目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・山代地区の為に何かしたいと意欲のある住民が地域で活躍できるよう、一緒に取り組んでいきます。山代の人たちがここに住んで良かったと思えるような街づくりを住民と共に目標をもって目指していき、できることから一緒に頑張っていきます。 ・いつでもどんなときも立ち寄りやすいランチ事業所として身近な地域に存在し続けられるよう、みんなに優しく明るく安心できる場所になります。
------	---

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチで対応した対象者の状況を職員間で共有する。毎日の申し送りミーティングでも相談状況を伝えられるようにする。小規模日報の「利用相談・調整等に関すること」欄に記入していき、ランチ内で相談内容や活動状況を把握し、全職員がランチの動きが分かるよう可視化していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初期相談対応する職員間での情報共有は出来ているため、担当者が不在であっても電話対応も出来ている。また、ランチの活動を小規模日報に記入しているため、全職員が活動状況を知ることができている。 ・毎日の申し送りミーティングでの報告は十分に出来ていない。全てではなくても、特に気にかけてほしいケースは、対応状況をその日のうちに伝える意識を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今までランチ業務の経験が殆どなかった職員が、チェックリスト訪問や初期相談訪問に同行した。今まで経験がなかった職員が経験を積むことができた。 ・ランチ連絡会やブロック連絡会の書類は小規模の記録類と同じ棚に置き、全職員がいつでも見れるようにした。 ・小規模が開催している活動（お抹茶や法話）が現在はできないため、参加していた地域の方の様子を気にかける職員の意識変化が見られた。地域の方と会った際には挨拶だけでなく近況を確認したり、その様子を事業所で報告したり出来ていた。 ・地域の高齢者とかかわりが多い商店3カ所にランチのチラシを配った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方「お抹茶や法話に参加するようになったが、今年度はコロナ禍のため事業所に入りにできなくなったことは残念だ」 ・店先にチラシを貼った店主より、「買い物に来る方がチラシの前で立ち止まって見ている」「初めはチラシが小さく文字が読みにくいと思ったが、チラシを大きくしてもらって見やすくなったと思う」 	<ul style="list-style-type: none"> ①ランチのチラシを配布した商店や元気な地域の方が、気になる高齢者の情報や対応依頼をランチに伝えてくれるよう、お互いに声を掛けやすい関係を目指す。挨拶やちょっとした会話を通してその方々とのつながりを維持していく。 ②地域の方からの発信を待つだけでなく、日頃の地域の方と会話などから情報を得て、得た情報を山代資源票に記録していく。訪問対応やランチ周知が必要な方には、チラシ配布する。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・3ブロック制訪問を継続していき各地域に強いランチ職員を育成できる。 ・地域の方と触れ合う機会には積極的に名前を名乗り、相手の名前を覚えるように心がける。 ・運営推進会議においてランチ応援団マップを追記していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3ブロック制は継続しており、初期相談対応やチェックリスト該当者への対応を職員で分担して行っている。 ・新型コロナウイルスのため、地域に出向く事が出来ず、地域の方との関わりが殆どできていない。しかし、町で顔を合わせた場合は積極的に自分たちから挨拶をして顔なじみの関係を保っている。 ・運営推進会議の開催も出来ておらず、応援団マップ作成については今後も実施を考えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の異動などにより職員の配置が難しく、下半期は3ブロック制訪問があまりできなかった。3ブロック制は、担当地区を深く知る、顔なじみになりやすいといった利点があるため、スタッフ育成を行い、再び3ブロック制を実施できるようにする。 ・地域に出向く機会が殆どなかった分、地域の方と会った際には挨拶だけで終わらず近況を確認したり様子を事業所で報告したり出来ていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員「3ブロック制にして担当意識が持てた。続けていけることで、その地域を深く知ることができるのではないかな？」 	<ul style="list-style-type: none"> ①3ブロック制の再開のため、ランチ職員の育成に努める。65歳以上の大半がワクチン接種を終えて以降、訪問経験のある職員が、手続きの流れや面談の手法を伝え、年度内に一人で訪問に行けるようにする。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・住民や民生委員からの相談等増えているため、今後はその後の経過についてもその方たちと積極的にやり取りし、繋がりを継続できるよう連携していく。 ・ランチ圏域の社会資源マップをリニューアルする。3ブロックごとのマップで見やすく活用しやすいものにする。 ・2年続けて中学生のボランティア活動が実現していない。山代地区を良くする会でボランティア実施のフローチャートを作成した経緯もある為、企画が途切れないよう中学校に働きかける。 ・町づくり協議会の会長が変わることがあるが、今後の山代地区を良くする会の運営や進行が住民主体で継続的に活動できるよう、すみれの家と協働で後方支援していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員から受けた相談の対応終了以降、民生委員と経過のやり取りはあまり出来ていない。民生委員とは電話でのやりとりが殆どで、顔なじみになりづらいが、声をかけて話がかしやすいい関係づくりをしていきたい。 ・地域資源マップは新しく作成し、新規相談者やチェックリスト該当者のマッピングをしている。マッピングから、独居、集合住宅（アパート、公営住宅）に複数の対象者がいる現状が見えた。今後、集合住宅への訪問時には、対象者以外の人や環境への関心を持って、予防的な動きをも考えながら伺う。 ・中学生のボランティアについて、冬場の雪かき活動に向けて中学校に働きかけていきたい。 ・山代地区を良くする会の運営等については、今後もすみれの家と協働し後方支援をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員からの相談や民生委員と共にかかわったケースが5件ほどあった。「ここに知らせるといいと聞いていたので」と今まで関係がなかった民生委員からも直接相談を受けることもあった。 ・中学校との働きかけで雪かきボランティアまでつながったが、実働までは伴わなかった。 ・山代良くする会は3月に開催し、今後の良くする会の取り組みについて話し合った。中学生のボランティア団体を活かすための活動についてや山代内を歩く際の休憩場所が必要ではないかな等の意見が出た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員「前からのつながりがあったのでランチに連絡しやすかった」「自分たちが頼れる場所があることは安心できる」 ・山代良くする会の参加者「雪かき以外でも中学生の力を地域のために活かしてほしい」「山代良くする会自体をボランティア団体として地域に何かできるといいのでは」 ・山代良くする会参加者「山代にベンチが増えるといい。ちょっと休める所が増えれば、外に出ることが続けられるのではないかな」 	<ul style="list-style-type: none"> ①民生委員への挨拶や一緒にかかわりを持ったケースでの経過や見守る視点の共有をしていく。 ②山代を良くする会で出た意見で、街で「ちょっと休める所」を初期訪問や地域の人から意見をもらいブロックを限定してマッピングしていく。マッピング情報が増えたら、山代良くする会で、意見をもらう。

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
4 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	<ul style="list-style-type: none"> ・区長さんに運営推進会議の参加について伺う。現委員さんを通して知り合いになる。 ・ランチ社会資源情報とマップを組み合わせ、圏域社会資源マップを作成する。 ・お茶飲み会（毎月20, 30日）は地域の方の協力が得られ、住民主体での定期開催ができる。地域の人にお茶飲み会の名称を付けてもらい、住民中心で発信し周知できるよう声かけやチラシ配布などのサポートをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスのため運営推進会議を開催は出来ず、区長さんの参加も出来ていない。11月には区民会館での開催を予定としている。区民会館使用にあたり今年度の区長さんへのあいさつし、推進会議への参加の依頼をした。 ・運営推進会議の開催に合わせて、応援団マップ作成については今後も実施を考えていく。 ・お茶飲み会についても開催が出来ずにいるが、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、開催を考えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議の開催が出来なかったため、区長とのかかわりが持てなかった。しかし、民生委員からの直接相談があり、少しずつランチが地域に浸透しつつあるのではないかと感じる。 ・お茶飲み会には今後の新型コロナウイルスの流行状況を考え、地域の方の協力の下、開催していきたい。また、市の八重の盾の一環で、サークル、サロン等への感染予防説明を行ったため、代表者とのつながりができた。そして、説明後にサークル参加者から地域の気になる方の相談を受けたり、来年度のサークルでの行事を依頼された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議参加者「コロナ禍ではあるが、状況を見ながら運営推進会議が出来ると良い」「お茶飲み会も状況を見ながら開催できると良い」 ・ランチが感染予防説明を行ったサークル参加者「サークルでの感染予防説明があった事で、ランチが身近な相談先であることが分かった」 	<ul style="list-style-type: none"> ①地域の方が閉じこもり傾向にならないよう、サークル等の再開時期を把握や参加している方で心配な方の情報をサークルリーダーから把握し、閉じこもり傾向の方には訪問対応をとる。 ②サークルリーダーがサークルを開催にあたり不安や困りごとがあれば、感染対策やフレイル予防の取り組みについて助言していく。 ③山代の社会資源マップが活用していけるよう、情報が新たにあれば追記し、訪問時活用する。
5 地域福祉コーディネート業務について	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチ社会資源情報と3ブロック制訪問から圏域把握ができ、軒下マップを通して情報を重ねていき、地域の現状を知る。運営推進会議でも軒下マップを活用した事例検討が実施できるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3ブロック制での対応を継続し、担当職員は地域の方の顔なじみとなり、出向きやすく、地域の実情を知れる体制を保つ。 ・運営推進会議は開催出来ていないが、地域の方と地域からの相談について一緒に考える機会を持てるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・下半期は3ブロック制訪問があまり実行できなかったが、今までの積み重ねを基に、3ブロック制について振り返りをした。山代地区の一部の、ききょうが丘圏域という限られた範囲にもかかわらず、3ブロックごとの住民の暮らし方の違いとして、休む場所の必要性や金銭的な課題などが感じられたことは大きな成果であった。今後は、今回得られたブロックごとの違いから課題を考えていく。 ・3ブロック制のマップは、あまり追加することができなかったが、マッピングを見て相談を振り返ることで、3ブロックごとの違いを感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方「区長や民生委員以外の、地域の頼りになる人や場所が見つかるといい」 	<ul style="list-style-type: none"> ①ランチ業務に慣れないスタッフが軒下マップ作成の機会を持てるようにするために、個人の軒下マップに情報を記入できるように伝えていく。 ②個人の軒下マップから吸い上げ、地域資源マップにも情報を記入していく。 ③3ブロック制から見えた暮らしの違いから、ランチ内で課題を考え、運営推進会議で地域の方に報告し、課題について考える。

令和2年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	庄地区高齢者こころまちセンター 小規模多機能ホーム いらっせ庄
施設管理者	森下絵美子
事業責任者	荒木伸治
ランチ設置年月	平成29年10月

目指す姿	「誰でも困っていたら助け合える町づくり」
------	----------------------

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	<ul style="list-style-type: none"> ・必要時つながる支援が行なえるように、ランチと各種団体や人との関係を強化する。そのために会合や民生委員の定例会に参加し、地域ケア会議に声掛けをしやすい関係性を作る。 ・把握できた地区課題から、地区の方と地域で支える活動を考える機会を作る。継続して交流を続けている、かがやき予防塾修了生の方とも活動を考える機会を持つ。 ・お聞きした困りごとは、本人たちが解決できるように関わる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区見守り座談会への参加は毎年継続している。庄地区のみ民生委員定例会の開催はない為、民生委員へのアプローチは検討中。 ・地区の介護申請の多い内容等、見えてきたものがある。その情報を地区の方に伝える機会をつくる。まずは、事業所の運営推進会議にてお伝えする予定。 ・かがやき予防塾修了生との交流は継続している（コロナ状況を見ながら再開する）。その際、活動を考える機会を設ける。その声かけは行なっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区民生委員からの相談や地域の方からの直接相談がみられるようになった。地域の方に相談窓口であることが知られていると感じる。 ・相談から繋がりが持てた方とは、その後も関わりが持てている。 ・介護申請の多い理由について伝える場を設けることができなかった。コロナ禍においてどのように行っていくか、地域の方とも考えたい。 ・かがやき予防塾修了生との活動も自粛している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口として、知っている人は増えていると思う。 ・高齢者だけでなく若い年代層の方にも知ってもらいたいのではないか。じいさん、ばあさんと住んでいる家もあるから年寄りだけでなく若い年代層の方にも知ってもらい、家での話題に出ると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ①地区見守り座談会へ参加し、要援護者や地域の方が気にしている方の情報を、民生委員や区長と共有し、必要時早期に相談・対応ができるようにする。話し合いの設け方について、地区会館へ相談する。 ②地区課題について地域の方へ伝える機会をどのようにするか庄地区会館と相談する。若い年代層の方との関わりについても相談を進める。 ③かがやき予防塾修了生の方がコロナ禍で、今後どのように活動を行っていくのか一緒に考える。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で高齢者を気に掛けてくれたり、社会活動を希望している人を修了生や協力員、ランチ訪問で把握し、ランチの役割・機能を知ってもらう。 ・地区の課題（疾病や阻害要因、不足した地域資源等）やニーズを、相談内容から数値化する。併せて、日報の考察に職員が地区課題と感じたことを記載していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチの役割は訪問や地域活動へ参加等、機会がある際に周知している。今後、ランチの役割を知ってもらう為に、地区全戸へのチラシ配布を地区会館へ相談中。 ・地区の相談で多いのは、身体機能低下であり、病気が筋骨格系であると把握できた。職員皆での共有にはいたっていない。今後、皆で話し合いの場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチの役割や相談窓口であることを知ってもらう取り組みは継続する。庄地区こころまちセンターを知ってもらう為に、定期的にチラシを配布していくこととなった。 ・地区の課題について。得た情報や気づきを話し合っているが、記録として残っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の区費の支払い時や地区のイベントの時を使って、庄地区こころまちセンターを広く広報していけばよい。区長会などでコロナの影響で開催できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ①地域の方にランチの役割を知ってもらうため、年3回ランチ周知のチラシを全戸配布する。コロナ禍で外出や顔を合わせる機会が減っているため、地域の方が見守り意識が持てるような内容をチラシに追記する。 ②地区課題を事業所の運営推進会議にて報告する。課題からフレイル予防や感染症についてサービスでの勉強会の開催も再度相談する。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・継続ケースについて、民生委員や社会資源を把握し、追記を丁寧にしていく。 ・継続的に見守りが必要なケースは見守るポイントを整理する。本人の軒下マップからランチも繋がりをもち、見守る点を共有していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続ケースの民生委員等、把握しているが、相談票への記載のみで、軒下マップの追記が不十分な場合がある。毎月のミーティングで継続ケースの進捗確認を行なう際、軒下マップの確認、追記も行なっていく。関わっている民生委員等への連絡ができていない方がいる。関わる皆で情報共有につとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続の見守りや関わる方のポイントについて、ミーティングにて共有している。相談表の入力後、ファイルに相談表を綴っている。ミーティングで記録にも残しているが、共有できていないことがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に民生委員から相談がなくても、庄地区の民生委員はいらっせ庄を知っていると思う。地区見守り座談会に参加したり、地域の活動に参加しているから。 	<ul style="list-style-type: none"> ①地域の方や民生委員からの相談がみられるようになった。相談後も経過を伝え、繋がりが途切れないようにする。 ②地域型元気はつらつ塾や協力員と連携し地域の情報（ヒト・もの・行事等）を得て、軒下マップに書き込んでいく。 ③訪問した方と民生委員に繋がれば、訪問後に了解へて挨拶し、見守る視点を共有する。

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
4 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に開催しているミーティングで日報の考察を活用しながら、関わりの中での悩みや本人や家族のニーズ・課題・支援方針の振り返りを月1回1ケースの事例検討を行う。 サークルや健康クラブの参加を継続し、参加者の把握はできている、今後、参加者が途切れた際に連絡や情報をもらうよう早期対応の体制づくりをしていく。そのために、地区の介護申請等につながりやすい課題を整理し、サークルリーダー等に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ミーティングで月1回、ケースの振り返りを行なっている。困りごとを聞く事に意識が向き、本人のニーズが聞けてない状況が確認できた。振り返りから、ニーズの重要性を再確認した。振り返りでの気付き等、記録として残っていない時がある。今後も事例検討を継続し、記録していく。 健康クラブやサークルへの活動は継続している。（コロナ状況確認しながら）サークルリーダーや事務局とは、連絡が取れている。しかし、参加者の変化についての情報は少ない。 地区課題を伝える機会を設け、情報をもえるようサークルリーダーに相談する。 	<ul style="list-style-type: none"> ケースの振り返りは毎月行っている。緊急対応が必要か判断に迷うケースがあった。ブロック連絡会での事例提供もこのケースを行い、緊急時対応や本人や家族の思いについて、考えることができた。今後も継続できると良い。 サークル活動への参加はコロナ禍で多くはなかったが、高齢者の通いの場における感染症予防等指導の機会に繋がりが持てた。 サークルリーダーに地区課題を伝え、情報を得る機会が持てなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな相談が入っている。どのような相談が多いか知りたい。多い相談内容がわかると、自分自身健康に気を付けたりできるかもしれない。転ばないように運動するとか、食事に気を付けるとか注意するかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ミーティングでの事例検討を継続する。終了ケースについて振り返りを行う際、日報考察を活用しその時どのように考え行動したか、確認しながら行う。職員の気づきや今後の相談対応に生かせることを記録に残していく。 ②サークルや健康クラブの参加を継続する。決まった職員だけでなく、参加職員を増やす。参加するだけでなく、活動内容を把握し説明できるようにする。 ③介護申請に繋がりがやすい課題をサークルリーダーに伝え、課題からランチ活動内容を考える機会を持つ。
5 地域福祉コーディネーター業務について	<ul style="list-style-type: none"> 資源マップにヒトの情報（世話焼きさん）を記載する。ヒト・場所・その他に分け、毎月追記と確認を行なう。 昨年度、若葉台の一人暮らしの方の把握を行なった（地図マッピング）情報に変化がないか、見直す機会をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 資源マップの追記を継続して行なっている。その他、の情報が少ない。その他、を記載の際に意識する。 若葉台のマッピングについて。民生委員の交代があった。前任と現任民生委員や前回参加下さった地域住民に参加いただけるよう声かけを行なっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 資源マップについて情報を持っている職員はいるが、皆に伝えられない時がある。その情報をどのように共有できるか検討事項である。 若葉台のマッピングについて機会を持つことができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> マップと聞いて、店や公民館など場所の地図と思っていた。人の記載もあり区長は変わるから見直しして追記してある。地図の色が増えていくのは良いこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ①地域資源の把握は常に必要である。職員を町別で担当制にし情報収集を行う。どのように情報を得るかから職員で考え、定期的にミーティングで情報共有の場を設けマップ追加も行う。 ②若葉台の一人暮らしマップについて、どのように見直しを開催するか民生委員に相談して進める。

令和2年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	勅使・東谷口地区高齢者こころまちセンター 小規模特養ホームちよくし
施設管理者	中野 裕紀
事業責任者	北村 貴子
ランチ設置年月	平成31年1月

目指す姿	勅使地区：田畑などの役割を続けながら、交流の機会を通じて健康に対する意識が高まるまちづくり
	東谷口地区：健康に対する意識の高さを活かし、誰もが集える居場所のあるまちづくり

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	<ul style="list-style-type: none"> 地域のサークル、サロンに出向いてランチの周知を図っていく。 民生委員や各町の区長、まちづくり協議会にランチの周知を行う。(区長会、民生委員定例会の参加) 2地区のまちづくり事務局に顔を出し、今後の活動展開についてアイデアをもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> 4月から6月はコロナウイルス感染症予防のため、地域の活動や会合等に参加する機会がなく、周知が行えなかった。 7月に勅使地区の見守り座談会に参加し、ランチの役割や地域型元気はつらつ塾の進捗状況について説明を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 感染予防等指導業務にて、宇谷すこやかクラブ、やまゆり健康サークルに出向いて講座を行った。いきいきサロンについては、コロナウイルス感染症の流行に伴い、休止していたため、出向くことが出来なかった。 地区会館に顔を出す機会が増えたが、地域の情報収集や具体的な課題について把握出来ず、活動についてどのように進めていけばいいか分からなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症予防の観点から、今年度は会合等が中止となった。事業所の運営推進会議も開催を見合わせたため、意見を聞く機会を設けることが出来なかった。(資料を送付している。) コロナウイルス感染症の事があり、行事等が開催ができなかった。ワクチンや治療薬があれば心配も減る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①事業責任者と職員1人ずつで地域のサークル(宇谷町すこやかクラブ1回/月)やサロン(横北町1回/月)に出向き、ランチ職員の顔を覚えてもらう。 ②2地区でどのようなまちづくりの活動があるのか把握し、参加可能な活動には参加し、ランチ職員の顔をまず覚えてもらう。 ③個別の相談内容(初期訪問一覧表)やチェックリストのデータ等の情報を、今年度を目標にまとめる。 ④まとめたデータは、第2層協議体(運営推進会議)にて報告する。開催が困難な場合は、書面にて住民へ報告し地区の実態を知ってもらう。その状況について感想や課題、具体的な改善方法などの提案をいただく。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	<ul style="list-style-type: none"> 2地区を担当制とする。各地区について担当職員が地域住民、地区の特性を知る。知った情報を事業所内で共有する。 介護予防基本チェックリストのハイリスク者訪問を担当制で行い、早めに出会い予防的対応を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 2地区を担当制とする予定だが、訪問件数が少なく、現状は決まった職員が訪問をしている。またサロン、サークル活動の休止により顔を出す機会がなく、ニーズの把握が出来ていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 2地区の特徴(社会資源、風習、住民等)について、知る機会が少なかった。特に東谷口地区について関わりが浅く、ほとんど知ることが出来ていない。 介護予防チェックリストハイリスク者訪問については、決まった職員で行った。自由記載等で気になった方については、次年度にも訪問を行っていく。 		<ul style="list-style-type: none"> ①東谷口地区の1町(須谷町)について、人や物や場所を知ることから始める。 ②訪問時の面接から地域の社会資源の情報収集する。 ③事業責任者と職員2名で元気はつらつ塾の参加者がいる町に出向いてさらに情報収集を行い、町の特徴を知る。知り得た情報を可視化できるようマッピングする。 ④介護予防チェックリストハイリスク者訪問で、自由記載等で気になる方(認知症の症状があるなど)と病歴をみて訪問を行い、モニタリングを行っていく。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク(地域社会との連携及び専門職との連携)構築の方針	<ul style="list-style-type: none"> 地域の課題を抽出し、健康講話を開催できるように働きかける。 引き続き介護相談を行っていく。 地域課題の解決に向け立ち上げている地域型元気はつらつ塾の協力員との連携を密にとり身近な地域の情報を把握していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 担当地区にある医療機関の医師と共に、毎月勅使地区会館にて、健康・介護相談を行っている。会館職員から気になる高齢者がいるとの情報があれば、連絡、訪問対応を取っている。 地域型元気はつらつ塾が感染のため延期しており、10月の開塾式に参加し、参加者の方と顔合わせをした。協力員から地域の情報を聞けるよう、今後参加させていただき事を伝えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 担当地区にある医療機関の医師と共に、毎月勅使地区会館にて、健康・介護相談を行っている。現状では、相談者はいないが、医師からの紹介で相談を受けるケースがあった。 会館職員からの情報提供により、地域の方に連絡を取り、必要に応じて訪問を行っている。勅使地区の見守り座談会に参加することで、民生委員からの相談も入ってきている。 地域型元気はつらつ塾が10月から開始となり、はつらつ塾に顔を出しているが、協力員と話をする機会が少なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 先日一人暮らしの人が自宅で亡くなっていた事があった。地域で、一人暮らしの人の把握をするのが大事なのではないか。どんな人とつながりがあるか知っているか、何かあった時に対応できると思う。 勅使地区の見守り支援あいネットワークは、家族や本人が希望した人のみ登録している。実際一人暮らしの人をすべて把握できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ①担当地区の民生委員や医師からの相談等が入るようになってきたため、連携を継続できるよう対応後の報告を行っていく。 ②サークルや元気はつらつ塾に参加し、世話役や協力員と顔なじみになり、気軽に話せる関係を築く。 ③1つの町(宇谷町)から、民生委員と一緒に、気になる方をマッピングし、どのような人や場所と繋がっているか確認する。

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
4 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	<ul style="list-style-type: none"> ・地域型元気はつらつ塾に参加して、活動内容、目的を理解し、介護予防活動に取り組んでいく。 ・地域おたっしやサークルに継続的に参加し、ランチ職員の顔を覚えてもらうようにする。 ・軒下マップを通じて継続的支援を行い、個の課題を整理していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10月から地域型元気はつらつ塾が開始となったため、今後参加していく。 ・地域おたっしやサークル活動への参加はできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域型元気はつらつ塾が開設し、参加出来る時は出向いている。はつらつ塾参加者2名の進捗会議を行い、高血圧や歩行の気になる点について、個別に訪問し確認していく事となった。 ・感染予防等指導業務にて、宇谷すこやかクラブ、やまゆり健康サークルに出向いて講座を行った。いきいきサロン3カ所については、休止していたため顔を出せていない。電話での連絡は行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はつらつ塾が始まって、通う所ができてよかった。楽しく参加している。送迎してもらえるので、参加できる。（参加者の声） 	<ul style="list-style-type: none"> ①地域おたっしやサークルやサロン、元気はつらつ塾に出向いて、ランチ職員の顔を覚えてもらう。出向いた職員は、地域の方から相談が入った時に介護予防としてサロンやはつらつ塾がどういふものか説明が出来るように内容や介護予防について理解を深める（事業責任者、職員2名が交代で参加出来るよう予定表を作成する）。 ②ランチの周知を行い、参加出来なくなってきた方や気になる方の情報を持っている方との繋がりをつくり、町の方が見守り役となっただけのように働きかけていく。休止中のサロンについては、感染対策についての情報提供を行う等、再開できるよう働きかけていく。
5 地域福祉コーディネート業務について	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の情報共有を行う際、社会資源マップに必要な情報を追記する。 ・ランチ勉強会、面接技術研修等に参加して、ランチ職員として知識やスキルアップを図り、事業所内部にも伝えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会資源マップは作成しているが、訪問時や地域の方からの情報を追記できていない。 ・「高齢者の保健事業と介護予防の一体的事業」についての研修会に参加し、研修内容を看護職員に伝えたが、看護職員からはランチとしての動きが難しいとの意見であった。 ・ランチ活動、地域福祉コーディネート業務について理解を深めるため、事業所内ミーティングで、周知、事例検討を行っていく予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会資源マップに、訪問時や地域の方からの情報を追記できていない。特に東谷口地区については、資源の把握が行えていない。 ・ランチ勉強会、外部研修に参加した職員から、他職員へ研修内容について報告している。面接技術について、ランチ業務だけでなく、介護する上でも必要なスキルとして勉強になった、本人のニーズを把握していくことは、難しいという意見があった。 ・ミーティングでの事例検討は、できていない。 ・ランチ業務について職員間で意識に差があり、事業所内ミーティングで再度ランチの役割について話し合いを行った。ランチの電話対応や日報記入について全職員で取り組み共有出来るように、事業所の業務日誌と同じファイルに綴る事とした。 		<ul style="list-style-type: none"> ①東谷口地区の社会資源の把握(人の把握から)が不足しているため、次年度は東谷口地区に重点を置いて情報収集を行い追記していく。 ②ランチに関連した相談や連絡があれば、対応した職員が日報にその都度記載していく。 ③ランチの活動が円滑に行えるよう、勤務表に予定を組み込む。 ④ミーティング時に、ランチ・ブロック連絡会で提供された事例等を用いて、ランチの活動や支援のあり方について学ぶ機会を持つ。 ⑤地元医師との協働による介護健康相談を継続して参加し、どのような相談が入るかをまとめていく。

令和2年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	山中地区高齢者こころまちセンター 富士見通りお茶の間さろん
施設管理者	桑原 好美
事業責任者	福永 典子
ランチ設置年月	平成27年9月

目指す姿	『地域に住んでいる誰もが気楽に話し合える仲間やホッとできる居場所がある』
------	--------------------------------------

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	・ランチが中心にしている集いを地域住民の力を借りて、継続できるよう支援する。参加者の思いや現状を把握し、地域ケア会議で意見をもらう。	・地域住民向けの集いは、コロナ禍のため、開催できなかった。参加者の方から再開の希望の問い合わせが何度かあったが、感染対策の観点から開催を見合わせ再開には至らなかった。今後開催に向けて感染対策十分に行い、運営推進会議の場や参加者の方々にも意見を頂きながら再開に向けて検討を行っていききたい。	・一年間を通して今年度はコロナ禍のため、住民向けの集いは開催には至らなかった。四十九の集いについては、参加者の思いや生活状況の把握には至っていないが、温泉地区の集いの参加者については現状、生活状況の把握はできている。	・集いの参加者から、コロナ禍のため、開催はできなくても仕方がないと思っているとの意見あり。	①社会資源や閉じこもりになっている人の把握のため、サークルや地域の集まりに参加し、地域住民と関係を深めていく。地域資源の一覧表に情報は追記し、サークルの特徴や雰囲気等の情報も記載して職員がサークルの特徴を伝えやすくしていく。 ②訪問や送迎時のタイミングで「あいおす」（今立）にまず寄ってみる。 ③四十九の集いについての地域ケア会議がコロナ禍で開催困難のため、なじみの職員が訪問し、生活状況の把握や今後集いの継続についての思いを確認を行っていく。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	・相談表のデータをまとめて、職員間で課題を確認する。確認した課題を地域ケア会議で報告して、意見をいただく。全職員が各町のサロン・サークル等に行き、雰囲気や活動内容、どうい人がいるかを知り、ランチ報告書に情報を記載する。（1人1回以上）	・相談票の分析シートを圏域ごとにマーカーで印し、職員各自が目を通して。課題を明確にすることまでは至っていないが、今後ミーティングで課題の把握を行っていききたい。コロナ禍のため、サークル活動が中止していたため、職員がサークルに参加することはできなかったが、高齢者の通いの場における感染予防指導業務の講義を通して、雰囲気や活動内容については、伺ったサークルは知ることができた。今後サークルが再開し始めたら参加していききたい。	・地区担当と分析シートをもとに課題の検討を行った。独居が多く、閉じこもり傾向にある事から、地区の世話好きさんや民生委員からの孤立している方の情報収集を取り組んでいききたい。今年度はコロナ禍のため、運営推進会議や地域ケア会議の開催ができず地域課題を報告することはできなかった。ランチの自己評価は地域の方々に個別に報告を行い意見を求めることは行った。サークルやサロンへは、今年度一人1回は参加する予定であったが、コロナ禍のため、参加することができなかった。しかし、高齢者における感染予防指導講義を通じて雰囲気や活動内容については知ることができ、ランチの周知にも努めることはできた。	・日々の定例的、定期的介護や世話があるにもかかわらず、評価→改善→提供と細かくチェックし、支援の向上に努めるスタッフの方々に感服している。（西谷地区民生委員氏より）	①地域と繋がるために、地域や地区社協、まちづくり等に出向き積極的に関係作りを行っていく。 ②民生委員や地域の世話好きさん等に挨拶をしたり近況の報告をし合いながら、地域の気になる人や町の特徴を把握し、住民同士の繋がりが強いところと繋がりが薄い地域のマッピングする。 ③サークルにランチの周知と参加者や地域の実状・困りごとを知るため、コロナの状況に応じて出向いていく。難しいようであれば、サークルリーダーに困り事がないか、近況の確認を行っていく。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針	・軒下マップの活用をしていくため、ランチで関わった事例の軒下マップから社会資源の繋がりを活かすための事例検討をする。（1件） ・地域ケア会議に職員がローテーションを組んで参加し、地域との繋がりを作る。また、職員各々の視点で地域課題を捉え、把握したことをランチの報告書に記載する	・現在、事例検討を行うことはできていないが、年度内に一回は開催したいと思う。事例検討には至っていないが、相談票を作成したら職員全員が見れるようにしており、対応方法も相談しながら進めている。初期相談の際や皆に周知したいこと等、ノートに記入し、電話があった際に誰もが対応できるようにしている。 ・地域ケア会議については、コロナ禍のため開催できていない。	・1件、職員皆で事例検討を行うことができた。事例を通して医療との連携が必要である場合も多く、医療連携の必要性も大事だということも学ぶことができた。地域ケア会議の開催はできなかったが、地域との繋がりを大事にすることに努めた。	・地域のケアマネジャーより、来年度はケアマネの圏域会議を再開して欲しいとの要望あり。	①訪問に備えて、書類の準備（前回のケアマネジメント表、軒下マップの持参）や、訪問前に職員間で事前に話をする時間をつくる。面談時、情報の取りの工夫を行う（できればその場で記録できることはする）。 ②ケアマネ圏域会議については、社会資源の共有と地域課題を話し合う機会とし、十分にコロナ対策を行い開催していく。
4 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	・西谷・東谷のサロン・サークルに行き、「山中地区高齢者こころまちセンター」の紹介を行い、相談がしやすい関係をつくる。 ・出向いた地域で地域の特徴を知るために、町の行事や習慣を参加者から聞き、町ごとに記録を残す。 ・ゆざややまちづくり推進協議会と繋がりを作るために地域ケア会議への参加をお願いする	・コロナ禍のためサロン、サークルが中止していたため、参加はできなかったが、感染対策の講義を通じて10月に2か所出向くことができた。サークルの雰囲気は知ることができ、顔つきも兼ねて行えたので、今後は再開したところから参加していききたい。地区ごとの行事等の把握のため、今年度より地区の記録を残すノートを作り記録を残すこととした。今後、運営推進会議の開催の際には、まちづくり協議会、ゆざやの職員の方にも参加の依頼を行っていききたい。	・今年度、高齢者の通いの場における感染対策講義を計5か所開催し、こころまちセンターの周知も併せて行った。講義をきっかけに民生委員と繋がることができ、ふんわりちゃんぼん大作戦の研修にも快く参加して頂けた。温泉地区広報にも研修参加の記事を載せて頂くことができた。 ・西谷地区会館やみやま、温泉地区まちづくり、文化会館にもコロナ禍でも対応できるよう、来所を外したチラシを置くことで周知を行った。東谷地区については地区会館の工事もあり、出向いたが周知には至らなかった。地区のノートを作成したが、コロナ禍のため、行事等もあまりなく活用するまでには至っていない。	・地域住民より、何かあれば相談します。相談しなくても済むように元気になれるようにこころがけたいという意見があった。	①新規の人がサークルに参加しやすくなるよう、サークルの代表者やメンバーと了解のもと新規参加者の情報を事前に共有していく。サークルに参加の可否を確認し、参加できていなかったら、なぜ行けなかったかを一緒に考える。 ②東谷地区に再度出向き、チラシの設置、周知に努める。チェックリスト訪問の際、現状把握だけでなく、介護予防の視点を踏まえ元気はつらつ塾やおたっしやサークルの参加等も勧めていく。また、おたっしやサークルや地域型元気はつらつ塾の目的や開催日がわかる資料を訪問かばんに追加する。 ③地区ごとのノートはあるが、活用するために、地区のどんなことが書いてあると有意義に使えるのか、事業所内で話し合いを行う。

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
5 地域福祉コーディネーター業務について	<ul style="list-style-type: none"> ・資源マップの情報が誰が見ても活用できるように11月までに職員で話し合い、内容の整理をする。また、追記や確認がしやすい場所へ配置する。 ・3月頃に、サロン・サークルや初期訪問で集めた情報を資源マップに追記する。 ・整理できた資源マップを地域ケア会議で参加者に見てもらい、情報を教えてもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資源マップについては、各自知り得た内容を積極的に追記を行っている。また、各種書類についても見出しをつけたり、必要書類の書き方見本を作成したり、整理を行い、活用ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチ用の訪問かばんに資源マップを入れる事を行った。また、社会資源の一覧表は随時追記を行っている。職員各自、新しい社会資源については皆で共有し、周知に努めている。ランチ研修を終え、新たにランチ訪問にいくようになった職員もあり、相談業務やコーディネーター業務にも指導を通して新たな気づきがあったり、自分たちの振り返りにもなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の拠点にふさわしい自己評価がなされている。地域に信頼され高い評価を得ている所以である。 	<ul style="list-style-type: none"> ①現在の資源マップは追記により、見にくい物となっており、自分たちが活用しやすい物を改めて作成する。また、サークル等に出向いた際に参加者の方から新しい情報を聞き取り追記していく。 ②運営推進会議、地域ケア会議等で地域の方々から地域の社会資源について意見をもらう機会を作る。

令和2年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	片山津地区高齢者こころまちセンター 小規模多機能ホーム いらっせ湖城
施設管理者	福島和江
事業責任者	前田さよ
ランチ設置年月	平成27年7月

目指す姿	隣近所が顔見知りになり、見守り助け合いできる関係になる。
------	------------------------------

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の人事異動があり、新しい体制の中でランチ業務を行っている。新人職員や異動職員はランチ業務や包括ケアシステムの理解があまりない。職員会議などを通して、職員間でランチ業務や地域包括ケアシステムについて再度共有をおこなっていく。また、片山津圏域が抱える地域課題を事例を通して学んでいく。 ・職員会議などの学びを活かし、新たな職員がチェックリスト訪問できる体制を築いていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新人職員及び異動職員にはオリエンテーションや事業所内の勉強会、同行訪問等で学びの機会を設けている。職員と一緒に新規訪問や継続訪問を行ってはいるが、1度の訪問で全てを教える事は難しい。 ・片山津圏域が抱える課題は事例を通して職員間で共有出来る様に努力している。 ・チェックリストのハイリスク者訪問は、コロナ禍の影響もあり電話での対応となっている。訪問が必要と感じられた時、新人職員と同行訪問し、次年度に対応できるよう体制を検討している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談及び支援が必要な人に、新人職員と同行訪問した。高齢者の状況を見る中で、何に困っているのかを具体的に聞き出し対応している。 ・今年度のチェックリストのハイリスク者訪問はコロナ禍の影があったが、後半は訪問した。中には、何度電話しても、何度訪問しても不在で、時間をずらす等工夫したが、対応できない方もいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者でも、自分はまだ介護者ではないと思っている方や、地域包括支援センターという言葉さえ知らない方等、介護に関心のない方や、又、家に閉じこもりの人達に対して、地域包括支援センターという存在を知らせるのは少し難しいと思いますが、コロナウイルス感染症が終息したら、祭りなどに、いらっせ湖城ランチというコーナーを作ってみたらどうですか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①地域包括支援センターの機能や地域包括ケアシステムの理解について年3回勉強会を行う。 ②相談や継続訪問を担当制にし高齢者の理解を深める ③ランチ活動の実績（データ分析）や状況を職員間で年2回共有する ④③のデータや課題を第2層協議体（運営推進会議）で報告し取り組みについて話し合う。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員との連携、関わりを深め、地域高齢者の情報を得る。 ・前年度に運営推進会議で出た「入浴」「ごみ捨て」の課題を、今年度の運営推進会議の場を活かして、課題解決に向けた（対応や社会資源）話し合いを行っていく。 ・ランチ新規訪問一覧表のデータから、地域の方が何に困り何の相談があるのか、事業所内ミーティングで分析する。また、その地域の実情を運営推進会議で地域の方にも報告し、見えてきた課題と一緒に考えていけるような関係性を築いていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員からは電話や来所されての相談があり、対応をしている。 ・独居の方が片山津圏域には多いため、民生委員との連携、関わりはとて深くなっている。 ・運営推進会議の場での話し合いは、コロナ禍の影響で開催できていない。 ・地域課題について、新規相談者一覧表からデータ分析しての話し合いは出来なかったが、民生委員からの相談や地域住民からの相談には、何に困り何の相談なのかという事をランチ職員間では共有出来ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員との関りはとて深くなっている。民生委員の方も、いらっせ湖城が片山津圏域の『身近な相談窓口』という事を周知されており、電話や来所され、地域住民の困り事の相談をされる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス感染症の影響で運営推進会議が中止になったので地域の事はあまり分からない。 ・『利用者をよく知る』為の手段として、スタッフ共有している何かのルーツがあると良いと思います。 ・町や民生委員との関りの中で、コロナの影響がなかったら達成可能な計画になっていたと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ①相談内容の中には、引きこもりや生活保護（経済的問題）障害のある人の相談もあり、対応困難な場合、基幹地域包括支援センターと相談し対応していく。 ②①の支援にあたり、必要な知識については、勉強会を1回は行う。 ③新規相談者一覧表からデータ分析（感覚ではなく、目で見る化を行う）を職員と共有する ④地区の社会活動（ボランティアやサークルなどの数や内容などの社会資源を追記し、まとめる。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・元気はつらつ塾の協力員や委託事業所、サロンのボランティアの方達と繋がりを持ち、地域の情報を共有していく。 ・相談に対して即対応できるよう、運営推進会議の場を活かして、地域の情勢を共有したり、課題解決に向けた話し合いを行っていく。状況に応じて必要時は関係者との連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で運営推進会議を開催し、問題点など話し合いは出来ていたが、現在コロナの影響で運営推進会議は中止している。しかし、運営推進会議の場だけではなく、状況に応じて必要時、地域包括支援センターや民生委員と同行訪問し連携を図っており、繋がりは保たれ情報も入ってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で元気はつらつ塾やサロン、サークルが中止となっていた所もあり、その間しばらくは繋がりを控えていた。少しずつ再開され状況に応じて連携を図っている。 ・運営推進会議は、今年度はコロナ禍で中止しているが、運営推進会議の場だけではなく、地域包括支援センターや民生委員との連携、情報共有は出来ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サロン、サークルも今年度はコロナの影響でお休みしている所もあり、連携は難しいと思います。 ・コロナ禍で防災の仕方が変わりつつあると思います。コロナ対策用の訓練など対応が必要だと思っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ①相談のあった高齢者すべての軒下マップを作製しているの、町ごとに見比べて共通する人や場などの資源を確認し、ランチとつながりをもつ ②軒下マップを生かした支援をするため、継続的に2事例において事例検討を行う。
4 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	<ul style="list-style-type: none"> ・独居の為、認知症が進行してからの相談が多々ある。早期発見の為に、民生委員や元気はつらつ塾協力員および委託事業所、近隣住民などとの情報共有を密に行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の為、地域型元気はつらつ塾が休止となり、筋力低下していく方が出てきている現状があったが、そういう場合でも速やかに情報が入ってきておりその都度対応した。民生委員や住民からも相談はあり情報の共有は出来ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・独居の方に対しては、民生委員からの相談が多く、同行訪問し対応している。 ・コロナ禍であり家に閉じこもりがちの方が増え新規相談で実態調査をすると、事業対象者ではないかと思われる方が増えているように思う。又、筋力が低下され、元気はつらつ塾の対象者ではないかと思う方や、住宅改修が必要な場合もありその都度対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・温泉場という地域の中、独居の方や物忘れの方が沢山いるので対応が大変だろうと思います。又、色々相談するのでよろしく願います。 	<ul style="list-style-type: none"> ①独居の方が多いため、民生委員や地域住民と情報を共有し不安や心配を抱えている方に社会資源やサークル等の参加を勧める。
5 地域福祉コーディネーター業務について	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた職員だけがサロンやサークルに参加するのではなく、職員が交代して参加できるようなシフトを作成する。 ・ランチ内部ミーティングを定期的に行い、悩んだケースや解決したケースを話し合いをおこなう。個々のケース会議だけでなく、ケースからでた課題を積み上げ、地域課題の分析をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の為、サロンやサークルの中止があり職員の参加はできていない。再開次第、職員が交代で参加出来る様にする。 ・ランチ内部ミーティングは定期的に行っており情報の共有は出来ている。話し合いはしているが地域課題の分析までには至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サロンへの参加は、コロナ禍で中止となっている所があり数回は参加できたが、継続は出来ていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いらっせ湖城は、ランチ、福祉コーディネーターとして、相談場所という事は周知されていると思います。これからも地域住民の為に頑張りたいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ①サロンサークルの参加はコロナ禍の状況を見ながら参加できる時は引き続き参加し、その時に出た住民からの声を聞き取り、個別のケースを丁寧に対応する。 ②入浴や買い物に困ったといった方も増えているため、社会資源マップの追記を1回はおこない支援に生かす。

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		

令和2年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	橋立地区高齢者こころまちセンター 小規模多機能ホームはしたて
施設管理者	田中 直也
事業責任者	道端 由香里
ランチ設置年月	平成27年9月

目指す姿	遠い親戚より近くの住民～ちょっこし不便かもしれんけど、安心がある町！橋立～ ●人と人、人と場のつながりが途切れず、途切れている場合は結びなおし、つながっていない場合は新たにつなぎ、更には次世代へつなでいくことで、年齢や障害の有無に関わらず、安心して暮らせる町づくりを地域の人と一緒に取り組みます。 ●まずは、地域の人に気軽に「ねえ、ねえ、姉ちゃん、兄ちゃん、ちょっと、ちょっと」と相談してもらえる関係づくりを目指します。
------	--

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ全員が、基本チェックリスト訪問や相談時に本人の「出来る力」に着目しながら本人の意欲や今までの生活歴、背景に配慮し、介護予防の取り組みについて提案できるように、月1回のスタッフミーティングにて事例検討や勉強会を設け取り組んでいく。 ・地域で行われている高齢者対象の笑和の会（一人暮らしの方対象）や敬老会などは、参加率が年々低くなってきている現状があるが、一方、活動を盛んに行っている現状がある。橋立地区にどのような場があるのか運営推進会議で住民の意向を聞き整理をし、民生委員や区長、まちづくり推進協議会とも連携し、ニーズに即した体制を作っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナの影響で基本チェックリスト訪問が電話連絡での対応に切り替わったため、訪問するときとは違い、顔の見えない状況の中で「本人の出来る力」に着目することが難しかった。過去に基本チェックリストや相談などで関わった事がある方については事前に情報を把握し変化について確認できるように努めることが出来た。 ・新型コロナの影響で運営推進会議や地区座談会、地域の行事、施設内での地域の方との交流などが行えず、地域の声を聴く機会を持つことが難しく橋立地区にどのような場があると良いのか意見を聞くことが出来にくい状況であった。地区会館の館長から町の活動情報等を聞く機会を作り現状の把握に努めることが出来たが、活動自体が自粛しているところもあり、ニーズの把握にまでは至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本チェックリスト訪問や初期相談時に本人の「出来る力」やこれまでの「生活歴、背景」に配慮しながら関わることが出来た。勉強会などは出来なかったが、各々が訪問に行った際に気づいたことや感じたことなどを報告しながら次回の訪問時に繋げられるように取り組めた。 ・運営推進会議、地域ケア会議等が新型コロナの影響で行えず、地域の方との意見交換が行えなかった。その為、こちらからまちづくり協議会事務局等に出向き、町の状況や課題など話せる機会を作り、意見交換を行った。町の活動が未だに自粛している事もあり、ニーズの把握までには至っていないが、コロナ禍でも行えることもないか、民生委員とも話す機会を持つことが出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナの影響で敬老会や笑和の会（一人暮らしの高齢者が集う会）等の集まりが出来なかった。あらゆる面で自粛が求められ、特に高齢者は外出の機会が失われてしまっていた。感染リスクを抑えて高齢者が少しでも触れ合う機会や顔を合わせて会話が出来る機会を持つことが出来るような取り組みが求められている。 ・新型コロナの影響でランチとしても中々訪問できないケースもあったのではないと思う。まちづくりの事務局や民生委員、区長等のところに足を運びながら、一人暮らしの高齢者などの暮らしを把握することは大変だったと思う。これからは隣近所がお互いに接して情報を持つことが大切になってきてくると感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①スタッフ全員で基本チェックリスト訪問を行い、ランチ事業責任者と特定スタッフ1、2名の計3名程度で初期相談を行っていく。 ②年3回は民生委員の定例会、区長会、まちづくり事務局に出向く等し、敬老会等の実施状況やランチの活動等の情報共有を図る。そして、一人暮らしの方、高齢者世帯、生活にお困りの方等について民生委員と連携しながら把握し、必要な方へ訪問などサポートに努めていく。 ③橋立町サロンの設置に向けて、要になる地域住民の方等と必要性、内容、継続可能な方法等について検討していく。町の方が主体となって動いており、進捗状況を毎月確認しながら必要時バックアップしていく。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らしの高齢者の生活状況の把握について、基本チェックリスト訪問やサークル、サロン、地域型元気はつらつ塾、民生委員の定例会に出向き確認していく。確認できたことや気づいたことなどはミーティング時に他のスタッフとも共有し課題等があれば検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らしの高齢者の生活状況については、サロンやサークル活動が行われている時期にはなるべく参加し、生活状況や気になることはないかなど話をする機会を作るように心がけた。一人暮らしではないが町の気になる方について、橋立地区の本人が出向いている他事業所と連携し情報を共有した。訪問方法や家族への介入方法について一緒に検討することで、迅速な訪問に繋げることが出来た。 ・地域型元気はつらつ塾に参加し、協力員や委託事業所から参加している方の気になることがあれば気軽に相談できる関係性の構築に努めた。サロンやサークル、地域型元気はつらつ塾に事業責任者以外の職員が参加し、地域に出向く機会を作ることが出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らしの高齢者の生活状況の把握について、サークル、サロンへ出向き、主になる方から気になる方の情報を得たり、参加者から直接聞く機会を持つことが出来た。町の気になる方については9町全部ではないが、民生委員と気になる方がいれば情報を共有しあいがら連携をとることが出来た。 ・定期的に民生委員の定例会、区長会、社協主催の地区座談会（今回は橋立地区見守りネットワーク振り返り）にはしたて生活支援センターの職員と共に参加し、地域との関係性の構築や顔の見える関係作り、相談があればすぐに対応できる相談支援体制づくりに取り組むことが出来た。民生委員からの直接相談も年々増えてきており、共に連携しあえる関係性を持つことが出来ている。 ・介護予防と保険事業の一体的事業を実施し、生活習慣病の悪化防止のために個別相談や健康教育をおこなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各サークルやサロン、地域型元気はつらつ塾に出向くことは高齢者の生活状況を素早くキャッチできると思うので大切だと感じる。民生委員の会合などにも参加してもらって色々な情報が得られると思う。 ・各町では月末に区費の納入日があり、その時の情報を区長と共有することも大切だと思う。区長は一人暮らしの高齢者ともこの場で話す機会を作るように心がけている。そこから気になる方がいれば、情報を共有しておくことも大切だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①一人暮らしの高齢者の生活状況の把握について、各町の区長とも相談しながら区費の納入日にランチ担当が年1回会館に訪問し、各町の区長と情報共有を図る機会を作る。また、住民とも顔の見える関係性の構築を図るため、区費の納入日に会館でランチの案内チラシを配り、困ったことがあればすぐに相談できるよう、周知を図る。町の会館へチラシの設置をお願いする。 ②相談時の地区データや基本チェックリスト等を基に橋立圏域の生活機能リスクが高いことや高血圧の既往のある方が多い事が現状である。サロンやサークル、地域型元気はつらつ塾、通いの場を活用し、地区のデータを見せながら看護師が高齢者の健康に関する不安等に気軽に相談に応じていく。看護師がサポートできる窓口があることをチラシ等で周知し、町の理解を得ながら【町の保健室】としての開設を6月末までに目指す。

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画	
		10月	3月			
3	介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も年齢や障害の種別に関わることなく、地域の身近な相談窓口として活動出来るよう、はしたて生活支援センターと一体的に取り組み検討できるものについては検討していく。 ・事業責任者以外のスタッフにも、地区見守り座談会、民生委員の定例会等に定期的に参加できる機会を設け、各町の民生委員や区長と顔の見える関係作りを継続的に行っているように取り組んでいく。そして、一緒に一人暮らしの高齢者や支援が必要な方の見守り体制を構築していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はしたて生活支援センターとは障害を持った方の相談があれば情報共有し、いつでも連携できるように体制を整えることが出来た。町で見かけた気になる方の相談をしたことで、タイムリーに関わってもらえることができた。 ・新型コロナウイルスの影響で地域の会合や集まり、行事等に参加することが難しく、他のスタッフも同様に地域に出向く機会を持つことが少なかった。コロナ禍でも民生委員とは電話で情報共有するなどし町の気になる方の共有を図っていた。今後は新型コロナウイルスの状況を見て中断している民生委員や区長を含めた地域の方との地域ケア会議を開催出来るように努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の相談が全体を占めていたが、障害の方の相談もあり、はしたて生活支援センターと連携し取り組めた事例もあった。 ・新型コロナウイルスの影響もあり、事業責任者以外の職員が地域の集まりに参加することは感染拡大予防の為難しかった。 ・同じ圏域にある他事業所、民生委員、まちづくり協議会事務局、地域型元気はつらつ塾の協力員と連携を取り、地域で暮らしている高齢者等で気になる方がいればすぐに相談してもらえるような関係性を持つことが出来、早期に相談に繋げ問題解決を図ることが出来たり、必要な機関につなぐことが出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・橋立町は世帯数が113世帯あり、高齢者や一人暮らし世帯も3割程度ある。毎月1回の区費の納入日は本人が町事務所を訪れる唯一の機会である。これは町にとっても対面で話が出る機会でもあり、なるべく徒歩で訪れるように促している。この他にもこのような機会を設けて大勢ではなく、対面できる場を増やしていきたい。 ・コロナ禍で各団体や関係者と情報交換する事が難しいと思うが、連携して体制を整えながら少しずつでも進んで課題の解決に向かっていって欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ①事業責任者が変わったことや区長が新しくなったこともあり、再度、地区の見守り座談会、民生委員の定例会、区長会等に参加し顔の見える関係性作りを行い、いつでも気軽に声をかけてもらったり、窓口に訪問してもらえるように努める。担当が変わっても継続して相談しやすい関係作りを構築していく。 ②運営推進会議でランチの活動報告を行い、町の課題等について参加している民生委員、区長、地域の方、ケアマネ、生活支援専門員等と一緒に検討し、取り組みについて話し合う。
4	介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	<ul style="list-style-type: none"> ・保健推進員と食生活改善推進員とタイアップし、健康づくり活動を積極的に進めていけるように交流を重ねていく。 ・事業責任者が保健推進員の会議に参加させてもらい、健康作りや生きがい作りが高齢者の分野でも協同して取り組めないか検討していく。 ・地域型元気はつらつ塾において食生活改善推進員【食改さん】にも参加してもらい、地域型元気はつらつ塾で行っている月1回の食事会にて、高齢者の食事の大切さや食生活のアドバイスなどについて協力してもらえないか検討する。 ・地域型元気はつらつ塾の活動内容について、運営推進会議や民生委員の定例会などを通じて具体的な活動内容や対象者等周知していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健推進員の活動内容について基幹型から活動等の情報収集に努めたが、新型コロナウイルスで活動を行っていないとのことで、タイアップについては今年度は難しいと思われる。食生活改善推進員食改さんの活動も同様。常時、食生活改善推進員食改や保健推進員の活動については確認しながら活動に繋げていけるように取り組んでいく。 ・地域型元気はつらつ塾の活動内容について、運営推進会議の開催が行えていないので周知できていない。基本チェックリスト訪問や相談などがあった場合に地域の方には活動内容などの周知は出来ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響で保健推進員、食生活改善員は活動を行っておらず、健康づくりの活動が行えなかった。同様に、保健推進員の会合なども行っておらず活動が困難であった。 ・地域型元気はつらつ塾の活動内容については運営推進会議が書面でしか行えておらず、具体的な周知や活動内容を伝えていく事が難しかった。その中でも個別の訪問時やまちづくり推進協議会の方には加賀市のガイドブックを参照し地域型元気はつらつ塾の活動や内容など周知することは出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は橋立地区会館の大規模改修に向けて高齢者が集まりやすいように住民の要望を聞いた。バリアフリー化を行い、地域の高齢者がいつまでも元気で暮らし続けられるようにサロン等の開催を計画していきたい。 ・コロナ禍で感染リスクが高い中ではあるが、細心の注意を払って今までと同様に地域の会合等にも参加し高齢者や一人暮らしの方の情報を収集し対応してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ①相談者へ適切に資源を紹介するため、ランチ職員が圏域内のサービスの内容を知る。圏域内にはデイサービス、デイケア、元気はつらつ塾、地域おたっしやサークルがある。見学し参加者、サービスの機能の違いなど職員間で共有する場を4回持つ。 ②保健推進員や食生活改善推進員と連携し活動をする。橋立圏域は、認知機能低下の方の相談が多かったり、高血圧症の方が多いので、元気はつらつ塾で、減塩のポイントや注意点などの講義や実技を行う。
5	地域福祉コーディネーター業務について	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり推進協議会や各サロン、サークル、地域型元気はつらつ塾等の拠点において情報収集し、スタッフミーティング時、定期的に地域資源のマップの見直しを行う。 ・地域の見守り体制の構築のため、地域の集いの場など、誰がどこでよく集まっているかなどを、地域資源マップを見直しをしていく過程で地域の方と一緒に地図におとす等、目に見える形で作成していく。 ・まちづくり推進協議会とも必要時意見交換を行い情報の共有を図りながら町の課題に対して何かしらの取り組みに繋がられるように検討を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源マップの見直しについて地域の方と一緒に行う事が難しいため、ランチ活動で知り得た情報の社会資源一覧表に落としこんでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源マップの作製を住民と共に作成することが新型コロナウイルスの影響で行えなかった。 ・まちづくり事務局の方のご厚意でランチや生活支援センターの事をより多くの住民に知ってもらえる機会の一つとして橋立地区だよりのブログや町の広報にランチと生活支援センターの紹介を記事として取り上げ、地域の方に相談窓口の周知を図ってもらえた。しかし、周知後の反応はない状況。 ・コロナ禍で町の活動自体も中止・制限されることも多い中で、民生委員、まちづくり事務局、区長との繋がりが途切れないように地区会館に出向いたり、研修会と一緒に参加する機会を作ることが出来た。地域おたっしやサークル等集いの場にも足を運び、顔の見える関係づくりを行った。直接、ランチに相談が入ることが増え、困っている方へのアプローチがタイムリーに出来た。 ・橋立町の元気クラブが解散となり、高齢者の集う場がなく活動したくても出来ない、世話役がいらない等の課題があった。区長と相談し、高齢者の活躍する場や参加する場の開催に向けた話し合いが出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉協力員を一昨年2名から昨年は12名に増員した。今年度は更なる増員が予測されている。 ・町の役員、班長の仕事の一つとして ①高齢者、要支援者へ月1回程度の声掛け ②避難訓練、災害時の避難誘導 ③敬老会等、活動等の補助を福祉協力員の任務とした。 ・防災訓練もコロナ禍を理由に出来なくなってきている。しかし、災害は待つてはくれない。さらに通常時でも高齢者や要支援者に関しては本当に必要な訓練が出来ていないのが現状である。大掛かりな訓練よりも高齢者、要支援者を含め実際にどのような方法で安否確認し、救助、避難を確保出来るのかシュミレーションする必要があると考える。お互いに協力しあいながら活動が出来るとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ①地区の広報等でランチの活動実績（相談実績のデータなど）や介護予防や生活習慣病予防のポイントなどの記事の掲載を定期的に行う。継続掲載することで、相談窓口として住民に知ってもらえることで、ランチがどのような機能で、どのような活動をおこなっているのか周知する。 ②「防災」をテーマにしたマップ作りを地域住民の方と一緒に作成し、防災の観点から隣同士が気にかけてあうような取り組みができないか検討する。その中で防災対策や一人暮らしの方、高齢者、障害の方等の把握に努めて行く。とりわけ、防災の意識が高く、昨年度、コロナの影響で実施できていなかった小塩町のマッピング作成ができないか町の要になる方と相談し、年度内1回は集まりができるよう取り組む。 ③社会資源マップの追記を1回おこなう。

令和2年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	金明地区高齢者こころまちセンター 小規模多機能ホームきんめい
施設管理者	西 邦子
事業責任者	西 邦子
ランチ設置年月	平成29年10月

目指す姿	<p>病院、店がなく不便だが、隣近所の繋がりが強い。お互い助け合いこれまで通りの暮らしができる町に！！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8町全てに「集う場」があり、ちょっとした相談ができる場がある。 ・身近な相談窓口として、地域の中で支援を必要とする人々を把握し生活課題の早期発見に努める。
------	---

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	<ul style="list-style-type: none"> ・元気はつらつ塾については時期を確認しながら開校に向けて準備委員会を再開する。 ・元気はつらつ塾の対象者については都度丁寧説明する。 ・宮野健康クラブの運営には絶えず気にかけて継続の為の後方支援を行う。 ・ランチ業務は事業責任者が殆ど訪問に行くためスタッフの訪問回数が少ない。スタッフにも業務を担ってもらう為初回訪問は2人体制で行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・元気はつらつ塾については、新型コロナウイルス感染予防の為開催が延期になっていた。加賀市内の状況から8月19日の開校に向けて7月2日に準備委員会を行った。8月5日に協力員説明会を行い顔合わせや打ち合わせを行ったが、その後加賀市内で感染者が出たことで再度延期になった。10月7日に開校することができ参加者は6名、協力員14名でスタートした。 ・宮野健康クラブは、町に相談したがコロナ禍で会館が使用できないため、活動を中止している。 ・相談者宅への訪問は、事業責任者以外のスタッフも訪問に行けるよう事業責任者と2人体制で訪問を行った。現在は事業責任者以外でスタッフ1名が1人で訪問できるようになった。訪問で困ったことは、都度報告を受け相談を受けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・元気はつらつ塾の参加者は11名に増えており、参加者からは「楽しい」「参加できてよかった」との声が聞かれる。3月に進捗会議を行い委託事業所へ要望を伝えたり、参加者の状況について情報を共有した。 ・元気はつらつ塾の協力員や参加者から住民の参加希望をお聞きした時は即座に対応している。 ・宮野健康クラブ再開については体制を整える必要があり、現在も休止となっている。 ・ランチでの相談業務は即時的に対応する為、ランチ担当スタッフ3名で行っている。また、10月から一体的事業のモデル事業を看護師が行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・宮野健康クラブの運営については、老人会が関わっていないので難しい面があると思う。必要な活動なのでぜひ継続していきたいと思うがコロナが落ち着かないと出来ない。 ・元気はつらつ塾がスタートし参加者が少しずつ増えている。20名まで増えたらいい。 ・元気はつらつ塾の協力員は14名登録している。地域には協力してくれる住民が沢山おり嬉しく思う。 ・元気はつらつ塾の対象者はどのような人かわからない。 ・ランチとしてよく顔を出してくれているので、その時に相談が出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①元気はつらつ塾に月1回は参加し、参加者・協力員の声を進捗会議で委託事業所と共有し、参加者の目標が達成されているか確認する。 ②宮野健康クラブは中止しており、再開にあたり住民の再開への思いを確認する。その上で、再開にあたっては、感染予防対策を行い、区長だけでなく老人会の理解も得る等、住民主体で実施できるよう後方支援を行う。 ③ランチ業務を行うスタッフ全員が、相談者に適切なアドバイスができるよう幅広い知識を持つ。そのために、ランチで勉強会を年4回行う。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチミーティングでサークル活動参加の意味を伝え、感じた事を聞き取っていく。 ・今後元気はつらつ塾の協力員として活動できる人を把握する意味でも、町ごとに社会的活動を希望する人や又活動している人の一覧を作成し、町ごとのファイルの見やすい所に添付する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全スタッフが集まって行うミーティングは出来なかったが、10月～地域おたっしやサークル活動を開始している地域に出向くスタッフには、サークルでの新型コロナウイルス感染予防対策の確認と住民の声を聞き取るように伝えた。 ・元気な住民把握の為一覧表を作成する事としているが、私達の頭の中にあり「見える化」まで至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サークル活動や元気はつらつ塾へ参加したり相談業務から見えてきた地域の課題として、出向く場所が少なく、そこへ行く手段がないと言う事だと思う。元気はつらつ塾は「迎えに来てくれる」為参加する事の不安は少なかった住民が多い。 ・ランチミーティングでは地域課題を話し合うまでには至らず、相談業務で迷ったこと等を話し合った。 ・元気な高齢者を把握するため、元気はつらつ塾の協力員の名簿をまとめた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・元気はつらつ塾の準備委員会は、今後地区の高齢者支援として地域ケア会議の場となってほしい。 ・元気はつらつ塾が立ち上がった後も定期的に地域の方と話し合いが出来たらいい。 ・地域課題はこの辺は何にもないこと。 ・バスもないし車がなければどこにも行けん。 ・民生委員からいろいろ聞くと参考になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①民生委員の定例会に参加し、元気な高齢者の情報を得ることで、ランチに相談があった方の軒下マップに繋げて支援を考える。 ②元気はつらつ塾からの地域の課題において、はつらつ塾準備委員のメンバーとともに、地域課題について話し合える場を1回は開催受する。 ③コロナ禍で行事の開催が難しい現状がある。地区内をランチスタッフが歩き、出会った方へ金明地区こころまちセンターや感染対策のチラシを配付し、コロナ禍での住民の暮らしや思いを聞き、住民を支える取り組みにつなげる。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチミーティングで当月訪問した住民の軒下マップを確認し、アプローチが必要な方がいないか話し合う。 ・軒下マップの更新を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チェックリストで訪問したことがある方の場合は、再度訪問する時は軒下マップの更新を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・かわかりが何度かある方については軒下マップの更新を行っている。 ・当月訪問した方の軒下マップを確認し、話し合うまで至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1人暮らしの方も増えるのでいろいろな情報は必要だと思うが、聞かれて嫌な方もおおいと思うので聞き方は考えないといけないね。 ・軒下マップはすごい個人情報満載。私だとそんな書かれると嫌です。 ・軒下マップって何？ ・軒下マップは本人に書いてもらったらいいいのでは。（聞かれて嫌な人もいる） 	<ul style="list-style-type: none"> ①ランチミーティング（年4回程度）で当月訪問した住民の軒下マップを確認し、アプローチが必要な方がいないか話し合う。 ②軒下マップは、記入漏れを防ぐため、覚えている間に記載したり、メモを残す。また、本人と軒下マップを記載し、本人を見る視点を増やす。

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
4 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	<ul style="list-style-type: none"> ・地区全体を把握する為に民生委員との意見交換を続ける。 ・サークルに参加したスタッフは、町民会館の事務やお世話人に「心配な人」がいないかお聞きする。 ・名札を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染予防のため、民生委員定例会には参加していない。今まで参加していたことでランチと顔見知りになり、以前民生委員だった方が元気はつらつ塾の協力員につながった。また、ランチとの意見交換会があったから良かったとの声があり、新型コロナウイルス感染対策をした上で、市と相談しながら定例会に参加していきたい。 ・小塩辻のみ地域おたっしやサークルを行っている。心配な方を把握すると共に新型コロナウイルス感染予防対策を確認している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員定例会には今年度は参加しなかったが、元気はつらつ塾の協力員の中に民生委員もおり、相談を受ける体制は出来ている。 ・相談を受けた際、すぐに介護サービスに繋げるのではなく、地域おたっしやサークル等他の社会資源も考え声掛けを行っている。 ・名札の名前が見にくいとの指摘があり名前を大きくした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・名札は名前が大きくて分かりやすい ・今年度はサークル活動を休んでいる期間があった ・元気はつらつ塾が始まって住民の行くところが増えてよかった ・町民会館の事務の方と顔見知りになり情報が入ってくる仕組みはいい事なので、スタッフも気にして声掛けを行ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ①地域おたっしやサークルは町単位で行っているため、様々な理由から同じ町の集まりに参加したくない方もいる。そのような方には、今までの活動状況を軒下マップから把握し、途切れたところへのつなぎなおしも考えた上で、元気はつらつ塾を紹介する。 ②民生委員の定例会に参加し、地区のデータや訪問から感じる傾向を伝え、地域について意見交換できる場を年2回もつ。
5 地域福祉コーディネート業務について	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険は本人保険であり自立支援であることを再度確認する。 ・全町のマッピングを見直す事は難しいので次年度は野田町、宮地町のマッピングを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談者やご家族と面談する上で「何に困っていて、どうなりたいか」「サービスを利用する事でどのような自己実現を目指すのか」を念頭に置いている。 ・事業所行事の中止や健康クラブの延期等で町内の方とマッピングをする機会がなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談者との初回面接では、デマンドではなく、本人の生活状況や生きてきた背景等の話からニーズを探るように心がけている。判断に困る時はスタッフに意見を聞くなどして、デマンドからのサービスに繋げないようにしている。 ・事業所行事の中止や健康クラブの延期等で町内の方とマッピングは行えなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町の事は区長さんがよく知っているのでマッピングは区長さんと一緒に行うといいのでは。 ・他地区では防災の為に「1人暮らし」「気になる人」のマッピングをしていると聞いたことがある。地区で行われている見守り座談会に参加し住民とマッピングが出来るといいと思います。 ・全町は難しいので1つつづ焦らずに行ったらいいと思うが、コロナの時期は出来ないよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ①今年度行えなかった野田町、宮地町のマッピングを、次年度は個別に伺った情報をマップに落とし込んだり、サロンが再開された際には住民と一緒にマッピングを行う。 ②訪問の際対応に迷ったケースは、事務所に戻って当日中に相談し、対応方法を検討する。事業責任者以外のスタッフがその場で判断し対応できるよう育成する。 ③資源マップの追記・修正を1回する。

令和2年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	作見地区高齢者こころまちセンター小規模多機能ハウスさくみ
施設管理者	横倉 ゆか
事業責任者	菅谷 由美子
ランチ設置年月	平成28年10月

目指す姿	一人一人がつながり もしもの時にも備えておける地区
------	---------------------------

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	<ul style="list-style-type: none"> ・地域おたっしやサークル・サロンへの参加は継続する。参加した際に各町の特性や良い点、不便な点をお聞きし、課題を拾い上げていく。 ・市が実施している健幸ポイント、ボランティアポイントを町のサークル等に説明し、生活習慣病予防、健康の維持や介護予防のひとつとして活用してもらう。そのためにも内部研修で内容を理解していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大の為、地域おたっしやサークル・サロンへの参加が難しい状況。又、地域おたっしやサークル・サロンの活動を中止している町もある。感染拡大状況が少し収まった6月にはランドゴルフを再開していると聞いた町の集まりの場に機会を作って顔を出すことが出来た。 ・市が推奨している健幸ポイントの内部研修を行う為に、主担当者が健康課にて改めて健幸ポイントについての話を聞いてきた。健幸ポイントの内部研修は7月を予定していたが地域おたっしやサークル・サロンへ出向く機会が作れなくなったことから、研修としてはなく、朝礼の場で情報として共有した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市が行った『新型コロナウイルス感染対策向上研修会』に市民の方と一緒に参加出来た。研修を元に、新型コロナウイルス感染予防の為に”八重の盾”（感染対策予防講座）を作見地区の地域おたっしやサークル・サロンに対し開催ができるよう手配し、実際開催した。町によっては地域おたっしやサークル・サロンの再開に慎重な所もあり、連絡を取り合い各地域おたっしやサークル・サロンの方針に従った。 ・地域おたっしやサークル・サロンの再開している町もあるが自事業所の感染予防もあるため、地域おたっしやサークル・サロンへの必要以上の参加が難しかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初から全世界が未知の新型コロナウイルスの感染の脅威にさらされ、これまでのような人の活動がほとんどストップしてしまった。貴事業所（介護施設）自身が特にコロナ感染防御には徹底した注意が必要で、そんな中で各地域おたっしやサークル・サロンも活動自粛する所が多く、当然参加が難しいのは理解できる。 今は内部研修で琢磨し、コロナ禍が明けたら、本来の活動に専念出来るよう期待する。 ・withコロナの生活が今後も続くと思われる。このような状況の中で、何が出来るか、何が出来ないかを考え、出来ることを重点をおいて、取り組むことが今は大事であると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①同地区松が丘ランチ、包括地区担当者と作見地区の課題整理を毎月行っており、その話し合いを継続して作見地区の現状・課題を整理し、整理したものを職員に伝え、職員皆で作見地区の現状について考えていく。 ②作見地区の現状を整理したデータ等を活用し、まず民生委員、まちづくり会長に作見地区の現状を伝え、課題等を考えてもらい、自分たちのこととして捉えてもらい、地域住民を主体とした改善策を話し合っていく場を年に1回設定する。 ③新型コロナ感染状況を確認し地域おたっしやサークル・サロンに訪問の了解を得ながら、今後も地域おたっしやサークル・サロンに参加し、各町の特性や良い点、不便な点をお聞き、まちの課題を拾い上げていく。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・相談を共有するために相談票をミーティングノートに挟んでいたが、相談票を共有した際に面接に行っていない職員が疑問に思ったことなどを書き込んでもらう。訪問後、職員にフィードバックする機会として、月1回のミーティングで事例の共有及び検討をする。 ・相談集計からまとめた課題について、今後地区にどのように伝えていくか、同じ作見地区ランチのいらっせ松が丘と包括職員とで検討し、実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談の共有の為、ミーティングノートに相談票を挟むことは継続している。相談票への書き込みは定着しておらず、職員間で直接、質問し確認し合っている。月1回のミーティングが新型コロナウイルス感染拡大防止にて中止しているため、朝礼での情報共有を行っている。検討事項は2、3名の職員で話し合っている。 ・課題整理をどのように行っていくかを同地区いらっせ松が丘と相談していくことになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談の共有方法は10月の取り組み方を継続している。 ・相談集計からまとめた課題については作見地区同ランチ、いらっせ松が丘と包括職員で現在、課題整理中である。 どのように課題を町の方に伝えていくか検討中である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の状況を共有する場は持てなかったがいつでも連絡、相談できる関係を築いておくことが今は大切であると思われる。 ・相談集計による課題は整理中かつ課題の伝達方法は検討中であるので結果に期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①作見地区の現状を職員に伝えていくことで、地区の生活状況の理解につなげていく。 ②相談票はミーティングノートに挟むことで共有を継続していくが、運営推進会議で使用されるランチ活動報告を職員にも回覧し、報告書に記載の初期相談のニーズを確認しあう。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・新規民生委員の方々や各町の老人会の方々に顔を覚えてもらい、関係を築いていく。具体的には、地域ケア会議（運営推進会議に兼ねる）に職員が順番に参加し、参加される民生委員の方々顔合わせしていく。 ・ランチさくみの軒下マップを職員で作成し、自分たちが関わっている場所、人を見える化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大防止の為、運営推進会議は集まりの場を持たず、民生委員等の方々には書面で相談状況の確認を行って頂いている。小規模などの日常業務の中で民生委員の方と話をする機会があった際、新規の民生委員の方には、自事業者がランチ業務を行っていることなどの説明を行い、今後の連携につながるよう努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規民生委員の方と顔を合わす機会である自事業所の運営推進会議は、新型コロナウイルス感染拡大予防の為に開催中止となり、民生委員等の方々には書面で相談状況の確認を引き続き行って頂いている。 12月には感染対策を行って運営推進会議を開催し、新規民生委員との顔を合わせやランチの進捗状況を報告した。 ・ランチで関わっている方や小規模さくみをご利用している方を通して新民生委員の方とも連絡を取れるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談しやすい関係を継続する為の取り組みを今後も継続していくことを期待する。 ・コロナ禍で運営推進会議の開催数は少ないが、それでもその間、ランチさくみといらっせ松が丘の会議に出席する民生委員は特にランチ業務は理解しているが、これを除く一部の新規民生委員はランチ業務に触れる機会が少ない事から意識が希薄と思う。会議出席者（人選）を決める、民生委員側の対応に課題があると考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ①コロナ禍で前年度出来なかった新規民生委員の方々とランチ職員との顔合わせを行う。具体的には、運営推進会議に職員が順番に参加し、参加される民生委員の方々顔合わせしていく。 ②昨年度に引き続き、地域住民へのランチ周知の為、作見広報に今年度も1回は掲載してもらうよう地区会館とのつながりを意識し、元気はつらつ塾等地区会館に顔を出した際は、地区会館の職員や出入りしている住民の方に挨拶の声かけし、地域とのネットワークの構築を行っていく。

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
4 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	<ul style="list-style-type: none"> ・初回・継続相談の際やサークルや周知活動の際に「作見地区高齢者こころまちセンターさくみ」として、ご本人やご相談者が気軽に安心して相談できるよう面接技術を生かして対応する。 ・周知活動に行ったことがない地区のクラブ活動の場を調べ、ランチの周知活動を行っていく。 ・地域おたっしやサークルとの関係力を高めるため、今年度も全職員が年間計画に沿って参加し、地域情報やニーズを把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主担当者以外の職員も訪問しているチェックリスト訪問は面接技術を活かす場になっていくが新型コロナウイルス感染拡大予防のため、固定の職員とした。 ・相談対応に関する復習の勉強会を少人数制で行った。 ・地域おたっしやサークル・サロンやクラブ活動の場の調査は感染拡大状況を確認し感染防止対策を行いながら今後調べる。 ・地域おたっしやサークル・サロンには、中止や自粛、感染拡大防止の為、参加出来ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規相談、継続訪問を主担当者と主担当者以外の職員とで訪問し、面接技術の研修を活かしながら相談を受けることが出来た。 ・新型コロナウイルスの感染状況から作見地区で行っているクラブ活動の調査を行っていない。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止の為、地域おたっしやサークル・サロンへの参加は必要以上には行わず、コロナ感染予防、熱中症予防、フレイル予防の”八重の盾”の講座のみの参加となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上半期はコロナ感染拡大防止のため、主担当者以外職員の面接技術向上の機会の場を失ったなどの結果はやむを得ないが実務を固定職員で対応しており問題ない。下半期で主担当者以外の職員が研修を活かした相談を実務出来たことは評価する。 ・各地域おたっしやサークル・サロンでは“八重の盾”講座の内容は関心事で皆、興味を持って聴講し、ランチが果たした役割は大きい。 ・地区のサークル活動等は介護予防にもつながることなので、今後も把握することに努力し、相談対応等に役立ててもらえればと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①主担当者以外の職員も、初期相談やアセスメント、書類作成などの業務に個々が対応していけるようにする。 ②基幹型包括の地区担当からの電話対応や相談者との連絡、アセスメントやサービス利用等の手続きの仕方等より細かな業務に、主担当職員が補佐しながら担当職員が相談業務にかかわる機会を増やしていく。担当職員が相談業務に慣れ覚えていくことで相談窓口としての対応力の向上につなげていく。
5 地域福祉コーディネーター業務について	<ul style="list-style-type: none"> ・社会資源マップを活用しやすくするために、地図内に項目別に色分けしたシールを貼っていく。 ・書面化した情報をより活用しやすいように、さらに情報を聞いた際に更新しやすいように項目別にファイリングしていく。 ・ランチさくみとして繋がりある方（見える化した軒下マップ）との関係が途切れないように集まりの場にランチさくみとして今後も出向っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資源マップ作成の仕方を変更し、さくみの軒下マップを作成した。ランチ、小規模、共有と分類し、今後も変更や増やしていけるようになっている。 ・収集した地域資源や情報を整理し、項目別にファイリングして情報ファイルを作成した。 ・集まりの場に顔を出し機会が作れた際には、新型コロナ感染状況に応じた上で感染対策をしっかり行いながら出向き、自事業所だけでなく包括にも感染対策の確認を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大予防の為、集まりの場には感染対策を行い”八重の盾”の講座で出向く以外は、必要以上にサークル・サロンの参加は控えた。しかし、サークル会長などかかわりのある方を見かけた際は声をかけ、情報交換や情報共有を行った。 ・資源マップの情報の更新や追記は継続し、誰もが分かるようにカテゴリー分けなどの見やすさなどの案も検討を続ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の事情も考慮すれば、業務取り込み状況は誠実で努力していると評価したい。 ・マップの工夫がなされているのを感じた。今後も継続し取り組んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ①昨年の相談者から住民が行ける場がないかとあり、地域おたっしやサークルやサロン、地区のクラブや教室の情報を集め、一覧表を作成し、住民に返す場を年に1回設定する。 ②地域おたっしやサークル・サロン、地区のクラブや教室を一覧表にする際、各代表に記載の了承を得ることで、それぞれのクラブや教室との新たなつながりを作り、必要時、地域の情報をランチに返してもらう仕組みを作る。

令和2年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	作見地区高齢者こころまちセンター 小規模多機能ホームいらっせ松が丘
施設管理者	村上 弘樹
事業責任者	小林 百合江
ランチ設置年月	平成28年9月

目指す姿	住み慣れた地域で安心して暮らせるように 「助け合える関係性・自分自身の健康づくり・場所とのつながり」を作り 「一人一人がつながり、もしもの時にも備えておける地域」となる
------	--

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	<ul style="list-style-type: none"> ・当日のランチ活動の内容を夕方と翌日の朝のミーティングで説明する。職員の連絡ノートにも記載し、職員間で共有する。 ・サロンへの定期的な参加を続ける。そのためにサロンに行く日や職員をシフトに組み込む。 ・作見地区の広報に年に1回ランチ活動の具体的な紹介を載せてもらう。(さくみランチと協力して) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチ活動の情報の共有はミーティングと連絡ノートで行っている。 ・9月までサロン等へ参加は出来なかった。10月はおたっしや会のみ参加できた。11月以降参加していきたい。 ・作見地区の広報紙へのランチの紹介を載せてもらう事はできなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチ活動の情報の共有はミーティングと連絡ノートで行っている。(継続) ・作見地区広報に作見松が丘のランチの紹介を載せてもらった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議を実施できず、意見を頂くことができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ランチの動きや活動内容はタイムリーに情報を共有する(継続) ②作見地区の広報誌に年に1回ランチ活動の具体的な紹介を載せてもらう。(さくみランチと協力して:継続) ③全職員がサロンの内容を理解して、利用対象になりそうな方に説明できるようにする事と、地域の方がランチに気軽に相談できるようにしたり、地域の情報を得くするために、地区の方と顔の見える関係になるようサロンへの参加を続ける。職員会議で次月のサロンの日時と参加職員を決める。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・地区のサロンに参加した時に世話焼きさんの情報を得る。 ・サロンやサークルへ顔を出した時に、会館に掲示してあるチラシから町の情報を得る。また、そのチラシを集める。チラシの内容をきっかけに、地域の方と話をし、町の情報を得る。 ・サロン毎に記録するノートを作成する。そのノートのどのような内容を記録するか項目を整理する。そのノートを年に2回確認する。 ・相談内容の分析を継続し、年に1回地域ケア会議で住民に報告し、意見をもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区のサロンには10月に1回のみ参加だった。11月以降にサロンに参加して、世話焼きさんや参加者の情報を得よう努力する。地区会館等に掲示してある情報を得る事も同様。 ・相談内容の分析は年度末に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世話焼きさんの情報は得られなかった。地区会館や町民会館に掲示してある情報は少し把握できた。 ・松が丘の相談内容や傾向を把握し、地区の課題を把握した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議を実施できず、意見を頂くことができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ランチ活動や地域福祉コーディネーター業務で出会った方の軒下マップを見返し、地域の資源やランチの応援団になってくれそうな方や世話焼きさんを把握する。 ②作見地区の相談内容の分析の話し合いを継続し、地域の課題と一緒に考えてもらう仲間を増やす為に、住民に相談の分析結果を年に1回報告する。 ③サロン毎でノートの作成を行う。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク(地域社会との連携及び専門職との連携)構築の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所に来てくれる3名のボランティアからこの地区のボランティア団体の情報を得る。 ・年に2回、軒下マップの意味や必要性の理解を広げるために、まずは、小規模の利用者のケースで事例検討を行う。その際、中堅研修を修了した職員が中心になって行う。 ・軒下マップ(目的、活かし方など)の勉強会を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響でボランティアの方に来て頂けなかった。 ・軒下マップは管理者から個別には指導をした。勉強会は11月以降に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きボランティアの方に来てもらう事はできなかった。 ・軒下マップの勉強会は今後も継続が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議を実施できず、意見を頂くことができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ①個別地域ケア会議は、基幹型職員と協力して開催する。 ②地区単位地域ケア会議の開催に向けて、これまでの相談内容から地区の課題を整理し、どのようにさくみランチと一緒に開催するか考える。 ③軒下マップの意味や必要性を理解するための勉強会を継続して行う。
4 介護予防に係るケアマネジメント(第1号介護予防支援事業等)の実施方針	<ul style="list-style-type: none"> ・中堅研修修了者は、おたっしや会、松が丘いきいきサロン、やおき健康クラブ、ふれあいきいきサロン、作見地区元気はつらつ塾に月に1回は参加し、どのような事を行っているか理解し、相談時に説明できるようにする。 ・参加できていない職員には、事業所内の勉強会でサロンの内容を説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サロン等への参加は出来なかった。11月以降に参加し、サロンの説明ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者以外の職員がサロンに参加する事はできなかった。各サロンの実施内容は管理者から説明した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議を実施できず、意見を頂くことができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ①事業責任者以外の職員も、各サロンにや元気はつらつ塾に1回は参加して、実際にどのような事を行っているのか理解し、ランチの訪問時の必要な方に説明できるようにする。

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
5 地域福祉コーディネート業務について	・さくみランチと協力して、作見地区の資源マップを半年に1回更新する。新しい資源が見つかれば、随時付け加えていく。	・資源マップの更新はできていない。11月以降に更新する。	・新しい資源が見つかった際、資源マップの更新は行った。今後も見直し追加をしていく。	・運営推進会議を実施できず、意見を頂くことができなかった。	①地区の資源や世話焼きさんと出会ったら、その都度、資源マップに追記し、さくみランチにも情報を提供する。 ②地域の方々がこころまちセンターやランチに早めにつながるようにするにはどうすればいいか、過去の相談内容の分析結果を基幹型包括職員とさくみランチと一緒に毎月、定期的集まりまとめていき、住民に返す場を年に1回は作っていく。

令和2年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	動橋地区高齢者こころまちセンター 動橋ひまわりの家
施設管理者	庄司 美樹子
事業責任者	小谷 一夫
ランチ設置年月	平成27年9月

目指す姿	地域住民同士が助け合えるまちづくり。 地域住民→動橋地区（ご近所・サークルやサロン仲間・友人・預金講含む）+小規模多機能ひまわりの家 助け合う→互助の精神・持ちつ持たれつ・助け合い組織・自治体や各関係機関の助け合い
------	---

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチ責任者交代にあわせて、スタッフ全員と事業責任者と一緒に地域包括システムの理解を深める勉強会する（年1回） ・勉強会の後、10月までに地域包括ケアシステムの重要性について、地域の方と一緒に考えたり、学んだりする機会ができるよう計画作成し、計画に沿って実行する。 ・民生委員及び地区社会福祉協議会とランチのつながりが強いので、この関係から地域ケア会議を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会開催に向けて、地域包括システムについての動画を事業責任者が確認し、理解する機会とした。理解した内容をスタッフへ伝える機会として勉強会を企画していたが、実現には至らず、再度検討しランチ勉強会に参加後、開催することとなった（2月） ・民生委員定例会への出席が出来ない月もあったが、直接相談が入ることもあり関係性は継続できている。12月の定例会は予定どおり開催されるため、コロナ禍での活動など情報交換を予定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチ勉強会に合わせて、事業所内で勉強会を開催する予定となっていたが、1月理解編が延期となり、研修も3月に延期した。3月に2名研修参加でき、伝達研修と合わせて実施できた。 ・8期介護保険事業計画も合わせて伝達した。 ・民生委員定例会の出席は、継続して出席させていただいており、民生委員の方々と情報交換がしやすくなっている。担当地区の方の状態など確認されることもあった。 ・小規模の事業所評価の際には、ランチの周知として、回覧板を回すことなど提案があり、来年度実現できるように計画したいと考えている 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員の連絡会には、動橋地区会館開催時出席して下さっている。情報交換できていると思う ・身近に相談窓口があることで、相談しやすい。 ・コロナの状況で、地区社協の活動も中心になることが多く、参加お願いできなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ①事業所内部研修に、ランチ活動をテーマとする勉強会の開催を年に1回は計画に入れ、事業責任者が中心となり実施できるようにする。事業責任者と前年度ランチ勉強会参加職員が、チェックリスト訪問へ出向く機会を増やしていく。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・町ごとに担当のスタッフを決め、各町（訪問、サークルなど）へ出向き、町の情報や風習、社会資源など情報を得る。得た情報は町ごとのノートに記載する。 ・相談のデータをまとめ、スタッフ間で地区の特徴を共有する。データの結果を地域ケア会議で町の人へ報告し、ニーズの把握をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本チェックリスト訪問と合わせて、町ごとにスタッフ担当を決めた。民生委員の方の担当地区と同じとした。現実担当者が訪問など対応することは難しく、特定のスタッフが対応することがまだ多い。町の情報についてもまとめること出来ていない。 ・相談内容や傾向については、小規模の運営推進会議の際に地域の方へ報告する機会をつくることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町ごとに担当スタッフを決めて、チェックリスト訪問から開始したことで、意識して訪問できるようになっている。一人で訪問等対応難しい職員もいるので、同行訪問の回数を重ね独り立ちできるようにしていきたい。 ・地区の情報収集したり、情報をまとめたりすることは、出来ず訪問し知り得た情報については、その場の職員で共有したり、ミーティングで話すまでで留まっている。新規相談のデータから地区の傾向などを確認する機会があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチ（事業所）のことを知らないという人もいるだろう。 ・動橋町以外のことは、自分達も知らないことも多い。住んでいる区中心になる ・推進会議のメンバーが、動橋地区の住民が多いので情報交換できて良い ・回覧板で周知する機会があると良い。年2回程毎年回覧し、実際興味があって意識して見る時は、自分の身近に相談したい出来事があった時だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①事業所内でのミーティングでどのような相談があるか、どのようなキーワードがでてくるかを相談票から確認し、社会資源マップの更新を行う。 ②町ごとに資源マップを修正し、知り得た情報を随時追加していく。特に中島町の資源マップを作成していく。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク（地域社会との連携及び専門職との連携）構築の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・軒下マップのスタッフ間での理解、活用をしていくために、まず、小規模の利用者のサービス担当者会議の場面で、必ず軒下マップを活用して、本人の暮らしの支援を考える習慣にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 小規模の新規利用者2名が、ランチからの関わりのある方であり、軒下マップの理解を深める機会としミーティングにて話す時間を設けた。以前の暮らしから本人の暮らしの支援を考える機会とした。 	<ul style="list-style-type: none"> ミーティング時に小規模の利用者の軒下マップの記入から、職員各々が他スタッフに確認しながら記入するなど、理解を深める機会とできた。社会資源の繋がりが途切れているところへのアプローチをできるように軒下マップを活用していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・軒下マップはその方に関わっている人などつながりが見れると感じている。活用できると良い ・自分たちが知っている情報を提供したい 	<ul style="list-style-type: none"> ①軒下マップのスタッフ間での理解、活用をしていくために、まず、小規模の利用者のサービス担当者会議の場面で、必ず軒下マップを活用して、本人の暮らしの支援を考える習慣にする
4 介護予防に係るケアマネジメント（第1号介護予防支援事業等）の実施方針	<ul style="list-style-type: none"> ・各町（訪問、サークルなど）へ出向いて得た社会資源情報（魅力、自主サークル活動等）を地区広報に掲載し、高齢者へ情報が届くようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月～9月は、サークル・サロンへ出向くことがほとんどできず、顔を出すのみとなった。繋がりが途切れない様に電話連絡を継続していた。10月地域住民と一緒に参加できる研修が開催されることをきっかけに連絡することも増え、11月感染予防勉強会の開催に向けて打ち合わせを行っている。 ・地区の広報誌はできていないが、今回勉強会について情報提供する予定 	<ul style="list-style-type: none"> ・10月ぐずの会・さわやかサークルの代表の方々と研修会に参加し、感染予防について一緒に学ぶことができた。また、勉強した内容を踏まえて、11月サロン・サークルにて勉強会を開催した。勉強会では、手指消毒のやり方やマスクの着用などの確認を行い、教えてもらって良かったという声を多く聞くことができた。 ・動橋地区社協の方のご厚意により、地区社協だよりに地域交流室ひまわりサロンについて掲載していただいた。今後は、実際の取り組みについて掲載できると良い 	<ul style="list-style-type: none"> ・動橋のおたっしやサークルが今年度で中止となる。このままで何もしないでも良いか？と感じているが、世話役はできない ・おちゃやがコロナの状況で中止して、行く場所がないと聞いている ・コロナの状況で制限されていることが多く取り組みなどができない 	<ul style="list-style-type: none"> ①元気はつらつ塾事業所の方と連携し、参加されている方々の情報交換を行うとともに、新規相談やモニタリングの際、必要な方はつらつ塾参加を紹介出来るようにしていく。 ②喜楽会（動橋老人会）や地域おたっしやサークル（さわやか・サロンおちゃや）などが活動中止や休止となっており、高齢者の集う場が少なくなっている現状から、集いの場所が途絶えないように、新たなサロンの立ち上げへの協力等後方支援を行う。

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
5 地域福祉コーディネーター業務について	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の方と地区の社会資源について情報交換をする機会をもつ（小規模運営推進会議や地域交流室の活用など）。 ・情報を日報に記載し、資源マップに追記し新しく、更新する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・6月サロンひまわりの開所式・内見会にて地域の方々にサロンの活用についてなどのアンケートを実施した。アンケート結果から、小規模の推進会議にて話あう機会を設けることが出来た。活用案をうかがうことが出来たが、実際の活動については決まっていな い。 ・スタッフの日報記入を定期的に声かけ、意識してもらっている。少しは記入が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議が中止になるなど、思うように地域の方々と話合う機会が持てない状況が続いたが、12月運営推進会議を開催でき、地域の方々よりランチの周知について回覧板の提案を頂いた。具体的な方法については、次年度検討となっている。 ・新規相談一覧表から相談の傾向について事業責任者と管理者で話をしたり、ランチ開設当初からのコーディネーター業務の振り返りを前任者とまとめ、話したりと話し合いの中での気づきを得られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・男性が参加できる活動があると良い ・サロンひまわりを活用して何かできると良いと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ①男性の集いの場を求める声もあり、個々の相談者のニーズから集いの場の検討や、ひまわりサロンや畑の活用を考え、地域の方にアプローチしていく。 ②地域の方と話す機会として、小規模運営推進会議で議題にあげ、地域住民の方と地区の社会資源について情報交換をする機会を年には1回は持ち、社会資源をつなげるアイデアを出し合う。

令和2年度 加賀市ランチ評価 統括表

ランチ名	分校地区高齢者こころまちセンター 小規模多機能ホームいらっせ分校
施設管理者	村井 英樹
事業責任者	内村 好美
ランチ設置年月	平成29年10月

目指す姿	いつでも気軽に相談できる町
------	---------------

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
1 地域包括ケアシステムの構築方針	<ul style="list-style-type: none"> 区長事務所や公民館の事務員に出向き、若い世代からみた高齢者の課題をリサーチする。 地区広報などにランチの活動の周知をする。(具体的な事例紹介や、地域の魅力など掲載する) 	<ul style="list-style-type: none"> 各町の公民館へ出向いた時には区長や事務員との話の中から地区の高齢者の課題についてのリサーチは行っているがまだ不十分と思われる。 地区広報での活動内容の周知はまだ行っていない。 運営推進会議でこれまでの活動で得た地域の課題を参加者に伝えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナの影響もありサロンが休止になったり地区の行事が中止になったりしたため、公民館に出向く機会が少なかったが、出向いた時には区長や事務員に話を聞き課題についての情報収集に務める事はできた。 地区広報での周知活動は行えなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナだから集まり事は何でもかんでも良くないという風潮は弱まってきており、しっかりと消毒やマスクといった感染予防策をとって少人数で集まる事で高齢者が地域に出向き本人の暮らしを継続する事ができると思う。そういった事例ができればよいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①地区の広報で元気はつらつ塾開設に向けた活動や分校地区高齢者こころまちセンター(相談窓口)を継続して載せてもらい周知する。分校町以外の3区長、事務員との関りがあまり持てなかったので活動報告書を用いて活動内容や運営推進会議の内容を伝えていく。
2 区域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務の方針	<ul style="list-style-type: none"> 町の情報から地域のニーズや社会資源の整理分類する。 相談からのデータを地域ケア会議で伝え、住民とともに意見交換し、地域のニーズや課題を把握し、取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域のニーズや社会資源の整理分類については、新たな情報を得た際には地域の軒下マップで整理分類している。 地域ケア会議は行っていないが、運営推進会議や民生委員定例会で相談からのデータを報告し意見交換しニーズや課題の把握に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナの影響で地域の情報を得にくい状況の時期があったが、得られた情報はその都度地域資源マップで整理し全職員に周知するように務めた。地域ケア会議は開催してないが、これまでの相談からのデータを区長会や元気はつらつ塾立ち上げの説明会で報告し地域のニーズや課題の把握や意見交換を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員定例会で気になる人のことや地域のことについて情報交換できるので良いと思う。これからは機会があれば相談からのデータを教えてもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ①運営推進会議にこれまでの参加者以外の方に参加を依頼し地域のニーズや実情の把握に取り組む。 ②分校地区の特徴を整理し課題の整理出しを行い、前もって基幹職員と整理し各町に返す事ができるよう年に3回話し合いの場を設けていく。
3 介護事業者・医療機関・民生委員・ボランティア等の関係者とのネットワーク(地域社会との連携及び専門職との連携)構築の方針	<ul style="list-style-type: none"> ミーティングで軒下マップの勉強会を年に2回する。 まずは、小規模利用者のサービス担当者会議で軒下マップを使って考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 軒下マップについてミーティングの場での勉強会はまだまだ出ていない。2~3人の職員には個別に説明したが、理解できるまでには至っていないと思われる。 利用者の退院前のカンファレンスを兼ねた担当者会議で軒下マップを活用した、各機関や地域との関係が容易に把握できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ミーティングの場での軒下マップの勉強会は行っていないが、個別での説明の継続やランチ勉強会「理解偏」参加することで理解は高まっていると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 婦人会にも参加して繋がりを持ってみてはどうか。挨拶だけでなく、例えば婦人会の会合でこれまでの数字や実績を伝えることで若い世代と連携しやすくなると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①毎月の職員会議の時間に軒下マップについての勉強する時間を設け実践する。軒下マップは作成したら終わりではなく、必要に応じてマップに出てくる社会資源と連携しニーズや課題の把握に取り組む。 ②婦人会の会合に年に1回は出向き、分校地区高齢者こころまちセンターの機能を説明し介護を抱えこまないように相談先を伝える。 ③ランチ勉強会や面接技術にまだ参加したことのない職員が参加し、ランチチームとして体制を整える。全員ではなくても3~4人を軸に相談内容を全員で共有していくよう取り組む。
4 介護予防に係るケアマネジメント(第1号介護予防支援事業等)の実施方針	<ul style="list-style-type: none"> 分校町以外の行事やサロンへの参加ができるよう各町のサロンなどの日時を確認し、職員が参加する。参加することで、その町のお店、世話焼きさん、町としての困りごと等の情報を得る。参加したら、日報(ノート)に記載する。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナの影響で行事やサロンが中止・休止となり参加することができなかった。10月から再開したサロンに順次参加し世話役の方達から情報を得ることができた。参加後は事業所内で情報をノートに記載し職員間で共有している。共有することで地域に目を向けるようになった職員が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナの影響で地域の行事はほぼ中止となったが、休止していたサロンが再開したこともあり出向いたサロンでは世話役や参加者から情報を得ることができた。年末年始にかけて各町のサロンにまんべんなく参加することができたがトータルでは参加に偏りがあった。 情報ノートの活用による情報共有も継続できている。管理者以外の職員のサロン参加は殆どできなかったが民生委員定例会へは管理者以外の職員の参加は勤務調整で出来るようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ランチ職員が出向きサロンに参加するのは、町によって差があるのは良くない。分校町以外のサロンの参加が増えるといいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①参加頻度が低いサロンへ出向けるよう勤務体系を調整する。民生委員定例会への参加を続け関係性を築くことで、サロンの世話役や民生委員から相談をつないでもらえる体制が整えられるよう取り組み、年度末にはどういった状況だったかを住民に返す場を設けていく。

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・経緯		意見	今回の改善計画
		10月	3月		
5 地域福祉コーディネーター業務について	・地域型はつらつ塾の立ち上げについて、地区データや相談事例から実態をまとめ、地域ケア会議に諮り意見をもらう。その上で、立ち上げについて、地域の方と計画する。	・元気はつらつ塾について、立ち上げへ向けた具体的な計画はまだ出来ていないが、昨年度からの相談事例から実態をまとめ運営推進会議で報告し意見をもらった。分校町の参加者(民生委員)から町の会合でも話をしてももらえることになった。民生委員定例会でも報告し意見をもらい実態の情報交換ができた。	・元気はつらつ塾立ち上げに向け12月の区長会で地区会館館長、各町の区長への説明を経て1月には各区長、区長代理、民生委員、まちづくり推進協議会メンバー、高齢者サロンリーダーとの会合の場で地区の相談事例や地区の現状を伝え立ち上げの合意を得ることができた。	・元気はつらつ塾をする事業所の公募等、動きがあれば伝えてほしい。元気はつらつ立ち上げの説明会で話しを聞きこの地区にもそのような場があってもよいと思った。	①元気はつらつ塾立ち上げに向け、分校ランチとして元気はつらつ塾の事業内容等について職員が理解し今後の相談業務に活かせるよう事業所内で勉強会を年に2回行う。